

平成24年度

香芝市の教育に関する事務の
管理及び執行の点検及び評価報告書

(平成23年度対象)

平成24年8月

香芝市教育委員会

目 次

はじめに	1
1. 施策の点検・評価	
(1) 平成24年度点検・評価事業一覧	2
(2) 各点検評価シート	4
2. 知見者の意見	52
3. 資料	
(1) 教育委員会の概要	54
(2) 教育委員会の活動状況	55
(3) 会議の開催状況	56
(4) 平成24年度 教育部重点目標	60
(5) 学校教育の指導方針	62
(6) 児童・生徒・園児数一覧	66

はじめに

『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』により、教育委員会では、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに市民に公表することが義務づけられています。

この報告書は、同法の規定に基づき、本市教育委員会が実施した平成23年度事業の内、主な事業を対象に点検・評価を行った結果をまとめたものです。

香芝市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(昭和31年法律第162号)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 施策の点検・評価

(1)平成24年度点検・評価事業一覧

政策名	施策名	主な取組事項	主な事業	所属
次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち	家庭・地域の教育力の向上	家庭教育の充実	家庭教育学級育成事業	生涯学習課 P6
			合同学習会事業	
		地域教育力の向上	学校支援地域本部事業	学校教育課 P8
			放課後子ども教室事業	
	就学前教育の充実	幼児教育の充実	幼稚園教育力向上事業	学校教育課 P10
			未就園児支援事業	
			幼稚園運営事務	総務課 P12
			幼稚園教育振興事業	
		幼稚園教育環境の整備	幼稚園施設耐震化事業	総務課 P14
			幼稚園施設維持管理事業	
	学校教育の充実	児童生徒の学力・体力の向上	国際理解教育推進事業	学校教育課 P16
			体力向上推進事業	
			小・中学校運営事務	総務課 P18
			小・中学校教育振興事業	
		安心して学べる教育環境の整備	児童生徒包括的支援事業	学校教育課 P20
			特別支援教育推進事業	
			学校給食事務	総務課 P22
			教育施設耐震化事業	
		小・中学校施設維持管理事業		
		信頼される学校づくり	教職員資質向上事業	学校教育課 P24
	開かれた学校づくり推進事業			
	子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成)	子どもの居場所づくり	子どもフェスティバル事業	生涯学習課 P26
			青少年野外活動センター管理運営事業	
			成人式事務	
広報啓発の強化		「少年の主張」事業	青少年センター P28	
		広報啓発活動事業		
子ども見守り活動の推進		市内特別巡視事業	青少年センター P30	
体験学習の機会の提供		ふるさと探訪事業	青少年センター P32	
		ファミリー雪体験ツアー事業		
適応指導の充実	教育相談事業	青少年センター P34		

政策名	施策名	主な取組事項	主な事業	所属
次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち	「だれでも・どこでも・いつでも」学び・楽しめる環境の充実	生涯学習機会の充実	市民公開講座事業	生涯学習課 P36
			市美術展覧会事業	
			学級生大会事業	
		スポーツ団体の支援	スポーツ少年団支援事業	生涯学習課 P38
			各種団体支援事業	
		中央公民館活動の活性化	生涯学習機会提供事業	中央公民館 P40
			登録団体育成事業	
		図書館機能の充実	図書館資料提供事業	市民図書館 P42
			子どもの読書活動推進事業	
		スポーツ施設維持・運営事業	社会体育施設運営事業	生涯学習課 P44
社会体育施設維持整備事業				
みんなで創る豊かで将来性のあるまち	歴史文化財の保存と継承・展開	博物館機能の充実	資料の保存と調査・研究推進事業	二上山博物館 P46
			学習環境充実事業	
		尼寺廃寺跡史跡整備の推進	尼寺廃寺跡史跡整備推進事業	生涯学習課 P48
		文化財の保護・管理	文化財保護啓発事業	生涯学習課 P50
			文化財保護審議会事務局事務	

(2) 各点検評価シート

点検評価シートの説明

主な取組事項名称

担当課 (担当施設名称)

第4次総合計画での位置付け

総合計画の 位置付け	政策名 : 施策名 : 主な取組事項 :	主な取組事項の目的を記入
目的		

	主な取組事業の 平均を記載	基本事務事業の経緯
--	------------------	-----------

・主な事業

1. 主な事業名称		・法での義務づけ ・各種計画での位置付け		行政関与の 必 要 性 有 効 性 効 率 ・ 経 済 性	主な事業の決算額(千円未満 切り捨て) ・予算が無い場合は『0』 ・総合計画見直しにより新規 の事業の場合は『-』		
〈目的〉		・市民ニーズ ・対象とする人数 ・緊急性 等			B		
〈取組の状況〉		・事業効果の高さ ・本来の目的以外の効果 はあるか ・類似・重複の有無 等				-	
〈成果〉		・実施による効率性 ・経済的 ・物件費の縮減の有無 等			22年度決算(千円)		0
〈評価〉				23年度決算(千円)			
2.		評価基準					
〈目的〉		A・達成している。(100%) ・現時点で予定通りの進捗状況である。		行政関与の妥当性		総合評価	
〈取組の状況〉		B・ほぼ達成している。(80%) ・現時点でほぼ予定通りの進捗状況である。 改善の余地が残されている。		必要性			
〈成果〉		C・概ね達成している。(60%) ・現時点で、少し予定よりも遅れている状況である。 達成には努力が必要である。		有効性			
〈評価〉		D・達成できていない。(50%以下) ・現時点で、予定を達成できていない。 達成には、相当の努力が必要である。		効率・経済性			
				22年度決算(千円)			
				23年度決算(千円)			

総計の中間年の27年度の目標値
該当数値がない事業については『-』
の表示

事業内容がわかり
やすい指標の設定

千円未満切り
捨て

指標や実績値について
の説明事項を記入

・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H21 年度 実績	H22 年度 実績	H23 年度 実績	H24 年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備 考
主な事業名称	活動名	決算 (予算)額 (千円)						
	活動名							
主な事業名称								

事業内容がわかる写真等

主な取組事項の『課題』を、
記載する。

《課題》

主な取組事項の『今後の取組』を、
記載する。

《今後の取組》

家庭教育の充実

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：家庭・地域の教育力の向上 主な取組事項：家庭教育の充実
目的	学級生が学習に取り組める環境を整備し、生涯学習に取り組むことを通じて豊かで生きがいのある地域社会の実現をめざすとともに、市民のニーズを的確に把握し、地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、親子関係のあり方や基本的生活習慣、思いやりの心の育成など、地域コミュニティづくりを目指す。

	<p>主な取組事項の経緯</p> <p>家庭教育の実情にあった学習内容に取り組むことにより、地域教育力の向上につなげる。また、合同学習会については、市民のニーズをとらえた中で、学習の質の向上と学級生同士の情報交換や交流を図る。</p>
--	---

・主な事業

1. 家庭教育学級育成事業			
<p>〈目的〉 家庭教育学級の現状にあったテーマで学習活動を行い、学級生同士が自己を高めること。</p> <p>〈取組の状況〉 各地域で家庭教育学級などの学級を開設し、家庭や学校、地域と行政との連携を図りながら家庭・地域の教育力の向上を目標としている。</p> <p>〈成果〉 今年度は、乳幼児を持つ親の学級参加が増加傾向にあり、学習意欲の向上が見られた。</p> <p>〈評価〉 家庭教育に対する意識が高く、学校・行政との連携が図られている。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	937	
	23年度決算(千円)	764	
2. 合同学習会事業			
<p>〈目的〉 学級生が一同に会し、社会教育学級に学ぶ意義・学習を認識し、学級及び学級生同士の連帯感を高めること。</p> <p>〈取組の状況〉 学級生及び市民が求めている「ニーズ」に応じてテーマを設定できるようにしている。</p> <p>〈成果〉 前年度より参加者が増加し、学級生の交流や学習意欲の向上が見られた。</p> <p>〈評価〉 自己啓発と地域のコミュニケーションが活発になってきている。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価 B
	必要性	B	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	50	
	23年度決算(千円)	78	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 (予定)	将来目標 (平成27年度)	備考
家庭教育学級 育成事業	学級運営	決算(予算) 額(千円)	884	937	764	(949)	(1,100)	学習のてびきの印刷
		学級数	13	12	12	12	15	
		学級生数	285	265	251	252	280	
合同学習事業	合同学習 会	決算(予算) 額(千円)	45	50	78	(162)	(170)	子を持つ親の参加が多いため、託児が必要
		開催数	3	3	3	3	3	
		参加者数	305	277	312	400	450	



【家庭教育学級活動】



【合同学習会】

《課題》

今年度の家庭教育学級生は乳幼児を持つ親の参加が多く、活動・事業に伴う託児の必要性があり、運営経費を大きく占める。また、働く保護者のための学習方法や開催日を工夫するとともに、魅力あるテーマを設定し参加人数及び学級生の増加につながるよう検討が必要である。

《今後の取組》

学校・地域・家庭・行政と連携しながら、魅力ある学習内容の検討を行い、市民が学習しやすい環境を整備し、学習活動の充実を図らなければならないと考える。

地域教育力の向上

学校教育課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：家庭・地域の教育力の向上 主な取組事項：地域教育力の向上
目的	青少年による犯罪、いじめ、不登校など、児童生徒をとりまくさまざまな問題が発生し、家庭や地域の教育力の低下が叫ばれている。子どもたちの教育を学校だけにまかせるのではなく、家庭・地域総がかりで子どもの教育を推進し、地域全体の教育力を向上させることが必要である。

	主な取組事項の経緯
	各小中学校では、地域の人材が学校での教育活動に参加し、子どもたちの育成に協力してきた。こういった活動を組織化したものが、平成20年度から「学校支援地域本部事業」である。事業化することにより、各校とも地域・家庭と連携して教育を行うことの重要性を再認識し、地域への情報発信力が高まった。

・主 な 事 業

1. 学校支援地域本部事業				
〈目的〉 子どもたちが多様な経験を持つ地域の大人とふれ合う機会を増やし、登下校の安全確保、学習活動、部活動の充実、学校の環境整備等を図る。 〈取組の状況〉 全ての中学校区に地域教育協議会を設置し、学校と地域が子どもたちの教育課題を共有している。また、全ての学校で様々なボランティア活動が行われている。 〈成果〉 平成23年度から「学校・地域連携事業」という新たな枠組みで補助事業がスタートし、放課後子ども教室とも連携した取り組みを行うことができた。旭ヶ丘小学校では、保護者主体のボランティアグループが組織され、ニーズに即応した活動ができた。 〈評価〉 地域や家庭から支援を受けるためには、学校が関心をもってもらえる存在でなければならないので、一層の情報発信が求められる。学校をベースにしたコミュニティーづくりにもつながる事業であり、学校・地域が主導で事業を進めていくべきである。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B	
	必要性	B		
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	22年度決算(千円)	2,753		
	23年度決算(千円)	2,253		

2. 放課後子ども教室事業				
<p>〈目的〉 近年の少子化による兄弟姉妹の減少、地域のつながりの希薄化、子どもの安全を脅かす事件や事故の増加などが要因となり、放課後に異年齢の子ども同士、友だち同士で過ごす機会が少なくなっている中で、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所を提供する。</p> <p>〈取組の状況〉 平成19年度から、放課後の学校施設を利用し、地域のボランティア人材との交流や学習支援を行っている。現在5校で実施している。</p> <p>〈成果〉 放課後子ども教室は、1箇所増やし5校で実施し、1年生から6年生まで児童70名が登録した。活動には、地域のボランティアものべ107名が参加した。</p> <p>〈評価〉 学校という安全な場所を放課後の居場所として提供し、地域の人材を活用し学習や交流の機会を提供できた。ただ、募集時には活動内容の周知が十分ではなく、参加を希望する児童数は昨年より減少した。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価	
	必要性	B		
	有効性	B		B
	効率・経済性	B		
	22年度決算(千円)			940
	23年度決算(千円)			1,360

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
域本部事業 学校支援地域本部事業	学校支援地域本部事業	ボランティア登録数	125	133	152	170	500	
		決算(予算)額(千円)	2,946	2,753	2,253	(2,446)	(3,000)	
放課後子ども教室事業	放課後子ども教室事業	実施教室数	2	4	5	5	10	
		決算(予算)額(千円)	875	940	1,360	(2,055)	(3,000)	

《課題》

両事業ともに、ボランティア活動の様子や、学校が地域のマンパワーを必要としている状況が地域に伝わっておらず、事業に協力するボランティアが固定化している。

また、特に放課後子ども教室事業については、従来からある子ども会などの民間活動をどのように活性化させるかなど、行政による直接運営のあり方なども検討する必要がある。

《今後の取組》

学校教育だけでは子どもたちの教育は成立しないことを再認識し、学校・地域・家庭の連携がさらに活発となるよう、地域への働きかけを強化していきたい。

幼児教育の充実

学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 就学前教育の充実 主な取組事項: 幼児教育の充実
目 的	就学前の幼児に対し小学校就学を見据えて、健康な心と体を育むとともに、自立心や人と関わる力を養う。

	<p style="text-align: center;">主な取組事項の経緯</p> <p>保・幼・小の連携を図りながら、幼児教育の内容の充実を図る。 教員の資質の向上や特色ある幼稚園の取組を進める。</p>

・主 な 事 業

1. 幼稚園教育力向上事業			
<p>〈目的〉 人格形成の基礎となる幼児期の教育を担当する機関としての重要性を認識し、市立幼稚園としての特色を生かし魅力ある教育を進める。</p> <p>〈取組の状況〉 外国語講師が幼稚園を訪問し、体験的な英語活動を行うことにより、自然に英語に触れる機会を持つなど、先進的な取組を実施している。</p> <p>〈成果〉 子どもたちが異文化に触れ、自分の思いを伝えることの大切さを学んでいる。</p> <p>〈評価〉 一定の成果は得られたと思われるが、小学校との接続を意識した取り組みとして発展させていかなければならない。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必 要 性	B	
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	638	
23年度決算(千円)	653		
2. 未就園児支援事業			
<p>〈目的〉 将来就園する子どもや保護者が参加し、幼稚園での生活やルールなどを学ぶ。また、親子で行事に参加し子育ての楽しさや子ども同士の交流を図る。</p> <p>〈取組の状況〉 全ての幼稚園で未就園児対象行事を実施し、多くの参加があった。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価 A
	必 要 性	A	
	有 効 性	A	

<p>〈成果〉 初めての集団生活となる園児であっても、就園前に行事に参加することにより、より円滑な就園につながっている。</p> <p>〈評価〉 本事業は、4歳児からの保育を実施している本市にとっても、就園する予定の幼児や保護者とつながりを持つ好機として捉えている。保護者にとっても、事前にいろいろな情報を得ることができ、安心して就園を迎えられると高評価を得ている。</p>	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)		0
	23年度決算(千円)		0

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
幼稚園教育力 向上事業	幼稚園英語活動支援	回数	30	30	30	30	30	
		決算(予算) 額(千円)	650	638	653	(300)	—	
未就園児 支援事業	未就園児 対象行事	実施園	9	9	9	9	9	
		決算(予算) 額(千円)	0	0	0	(0)	—	

《課題》

市立幼稚園は2年制保育であるが、3歳児の保育を希望する保護者は多い。また、年少人口数は県下で4番目に多く子育て支援や就学前教育に対する要望も強い中で、未就園の児童や保護者が交流する機会は十分提供できているとは言えない。

《今後の取組》

公立幼稚園として地域に根ざした幼児教育に徹し、保育所(園)、小学校、中学校としっかりとした連携を進め、特色ある園づくりを進めなければならない。

また、今後検討されるであろう「認定こども園」においても、子育て支援事業は必須機能であり、予算・人材を確保し、充実を図るべきであると考えている。

幼児教育の充実

総務課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：就学前教育の充実 主な取組事項：幼児教育の充実
目的	保育の充実と、幼稚園・保育所・小学校の連携を図ることにより小学校教育への移行を円滑に行えるように、健康な心と体を育むとともに、豊かな人間性の育成を目的とする。

	主な取組事項の経緯
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼・保・小の連携を図りながら、幼児教育の内容の充実を図る。 ・ 研修会などを実施し教員の資質の向上や、特色ある幼稚園の取組を進める。

・主な事業

1. 幼稚園運営事務			
〈目的〉 幼児一人ひとりの心身の発達や特性をふまえ、幼児の健全な成長のための環境整備を行う。 〈取組の状況〉 教員の配置や幼稚園運営に必要な物品・教材等の整備を図る。 〈成果〉 適正な人員の配置を行うことにより、円滑な園運営が図れた。また備品や図書の実質を図ることにより、保育に対する教員個々の指導力を発揮できる環境が向上した。 〈評価〉 幼稚園教諭は講師に偏重した構成となっているが、今後、幼保一体化の動向や、未就園児の人口動態、さらには就園率等を精査した上で適正化を図っていくことが必要である。幼稚園の予算運営については、各園の実態に則した、また均衡化に重点をおいた取組を進めた。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	40,281	
	23年度決算(千円)	77,107	
2. 幼稚園教育振興事業			
〈目的〉 幼稚園教諭の資質の向上のための研修会の開催や幼稚園教育の充実・発展を行う。 〈取組の状況〉 園内研修会の実施と全園児を対象とした運動会や各	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	B	B

<p>種行事に対する記念品の贈呈。</p> <p>〈成果〉 園内研修会をとおして、幼児教育に対するより質の高い知識の醸成を図ることができた。</p> <p>〈評価〉 個々の幼稚園において専門的な知識をもった講師を招聘し、各園の指導方針に則した指導・研修を受けることは、各教諭の実践的な保育技術・知識の向上を図る上で有効である。</p> <p>また、運動会等の記念品贈呈は園児たちの参加意欲を高める上で効果があると考えます。</p>	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	851	
	23年度決算(千円)	829	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
幼稚園運営事務	幼稚園教材備品整備事業	決算(予算)額(千円)	10,175	3,460	3,297	(3,900)	(3,500)	
	研修会事業	研修会参加負担金(千円)	118	118	139	(224)	—	
幼稚園教育振興事業	幼稚園教育振興事業	決算(予算)額(千円)	920	851	739	(890)	(890)	
		対象園児数(人)	917	918	862	777	—	



【絵本のコーナー：二上幼稚園】

《課題》

幼稚園教諭の配置については、毎年就園状況に応じて臨時講師の募集を行っているが、年々応募者が減少傾向にある。また、正規職員数と臨時職員数の比率が、臨時職員に偏重した構成となっている。

《今後の取組》

幼稚園教諭については、就園児数の予測を基に早い時期から募集を行うなど、より質の高い人材確保に努めたい。また、講師登録制を導入し、欠員が生じたときに迅速な対応が行えるようにする。

幼稚園教育環境の整備

総務課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：就学前教育の充実 主な取組事項：幼稚園教育環境の整備
目的	幼稚園は、園児にとって学習及び生活の場であり、安全確保のための耐震補強工事を優先しながら、豊かな人間性を育む快適な環境を維持するための整備・改修を計画的に進めていく。

	主な取組事項の経緯 香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づき、順次耐震補強工事を進めていく。また、緊急性、重要性等を踏まえ、計画的に改修、修繕等を実施し、施設の維持管理に努める。
--	---

・主な事業

1. 幼稚園施設耐震化事業				
〈目的〉 園舎の耐震化により、園児の安全を守り良好な教育環境を確保する。 〈取組の状況〉 園舎の耐震化については、平成21年度に全ての耐震二次診断を完了後、香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づいて、順次進めている。平成23年度は二上幼稚園の耐震補強工事を実施するとともに、1園（三和）の補強計画及び3園（下田・関屋・三和）の実施設計を行った。 〈成果〉 二上幼稚園はIs値が低く、園舎では初めての耐震補強工事を実施したことにより、今後の園舎耐震化の基盤ができた。仮設園舎として二上小学校の校舎を活用したことにより、工事費が抑制された。幼稚園の耐震化率が7.1ポイント上昇した。 〈評価〉 園児の安全を確保する上で、不可欠な事業である。Is値が低い園舎の耐震補強が支障なく完了できたことにより、今後の幼稚園耐震補強事業推進のモデルとなる。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	A	
	有効性	A		
	効率・経済性	A		
	22年度決算(千円)		8,442	
	23年度決算(千円)		92,949	
2. 幼稚園施設維持管理事業				
〈目的〉 就園する園児に、健康で安全に過ごせる快適な施設環境を提供する。 〈取組の状況〉 園舎、園舎に付随する設備、園庭、遊具等の保守、点検、営繕工事等を実施する。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	A	
	有効性	B		

〈成果〉 今年度計画に対し、園児の教育環境維持のため必要な遊具の修理や、施設の改修工事等を行うことができた。 〈評価〉 厳しい財政状況の中、緊急性、重要性等を考慮し、計画的に事業を進めることにより、健康と安全を提供できる。	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)		6,641
	23年度決算(千円)		3,573

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
耐震化事業 幼稚園施設の耐震化事業	幼稚園施設の耐震化事業	耐震化率(%)	50.0	50.0	57.1	78.6	100	
		耐震化実施施設数(棟)	0	0	1	3	3	
持管理事業 幼稚園施設維持管理事業	幼稚園施設維持管理事業	幼稚園施設延床面積(m ²)	7,793	7,793	7,793	7,793	7,793	
		維持管理工事費(千円)	2,999	2,824	12,805	(2,000)	—	H23年度二上幼の仮設園舎改修費を含む



【耐震補強工事が完了した二上幼稚園】

《課題》

幼稚園の耐震化工事は大規模な工事になる場合が多く、工期も長期にわたることから、仮設園舎を設置することにより事業費も高額となる。

《今後の取組》

園舎で耐震性が不足する残り6棟については、緊急性の高いものから工事を行い、平成27年度までの耐震化率100%を目標としているが、さらに計画の前倒し等も行い、できる限り早期実現を目指して取り組む。また、工事手法を精査し、工期の短縮を図るなどにより、工事費の低廉化に取り組む。

児童生徒の学力・体力の向上

学校教育課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：学校教育の充実 主な取組事項：児童生徒の学力・体力の向上
目 的	学齢期の児童生徒は次代を担う世代であり、その育ちのいかんは未来の香芝市の在り方にも大きくかかわっている。したがって、香芝市の次世代の育ちを大切にしていくなめには、児童生徒のさまざまな力を伸ばしていく必要がある。

	主な取組事項の経緯
	児童生徒への学力・体力をつけるための学校教育活動の充実支援のために、読書活動の充実、外国語活動の推進、体力づくりの奨励、見聞を広めるための校外学習の実施及び幼稚園・学校教育活動への指導、助言等を進めてきた。

・主 な 事 業

1. 国際理解教育推進事業			
〈目的〉 楽しい外国語活動を盛り込みながら、自然に英語に触れる機会を持たせるとともに、コミュニケーション力を養う。英語活動を通じて、異文化に触れさせる。 〈取組の状況〉 英語を母国語とする外国語活動指導員による国際理解学習 〈成果〉 ALT と教員の協働により計画的かつ適切に外国語活動が行われている。低・中学年では異文化に触れることに、高学年では英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を養うことに主眼を置き、音楽やゲームなど身体活動なども取り入れながら有効に進められた。 〈評価〉 子どもたちが主体的に外国の文化や言語を学ぼうとする姿勢が養われている。また、教員も ALT との授業で、英語活動を行うための自信をつけている。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必 要 性	A	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)		
	23年度決算(千円)		8,012
2. 体力向上推進事業			
〈目的〉 児童生徒の体力を向上させる取組を進め、豊かな人間性の育成につなげる。 〈取組の状況〉 各学校で重点的に取り組むスポーツ種目を決めて運	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	B	A
	有 効 性	A	

<p>動をする一校一運動を推進している。</p> <p>〈成果〉 5校が縄跳びや駆け足を運動種目に選択し、全学年で年間を通して取り組んだ。低学年から身体を動かすことや外遊びが定着している。</p> <p>〈評価〉 体力は短期的な取組で簡単に身につく力ではないので、継続的に働きかけなければならない。一校一運動により、全学年が一つのことに取り組める学校づくりにも役立っている。</p>	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)		0
	23年度決算(千円)		110

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
育 推 進 事 業 国 際 理 解 教 育 推 進 事 業 (小 学 校 費 の み)	国際理解教育推進事業(小学校費のみ)	授業時数	1,984	2,248	2,350	1,904	—	
		決算(予算)額(千円)	8,160	7,681	7,359	(6,220)	—	
体 力 向 上 推 進 事 業	一校一運動事業	実施校数	—	—	5	7	10	
		決算(予算)額(千円)	—	—	110	(20)	—	

《課題》

子どもたちの体力や学力を伸ばすためには、短期集中型の取組では真の効果は期待できない。何より子どもたちが、どのような活動にも活き活きと主体的に取り組む姿勢を育てることが必要である。たくましい身体、読む力・書く力・話す力・計算能力といった基礎基本を大切にしながら、わかる授業、楽しい授業を展開する教員の指導力の向上と並行して進めていかなければ効果は上がらない。

《今後の取組》

英語活動からさらに発展させた国際的な人材育成を目指す。また、体力向上については、幼児期の運動習慣に影響を受けることから、幼稚園・保育所での就学前教育との連携や家庭教育との協力を図り、楽しく身体を動かす習慣をつけることを目指し一校一運動事業を進めていく。

児童生徒の学力・体力の向上

総務課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：学校教育の充実 主な取組事項：児童生徒の学力・体力の向上
目 的	学齢期の児童生徒は次代をになう世代であり、その育ちのいかんは未来の香芝市の在り方にも大きくかかわっている。したがって、香芝市の次世代の育ちを大切にしていくなめには、児童生徒のさまざまな力を伸ばしていく必要がある。

	主な取組事項の経緯
	児童生徒の学力・体力の向上を図るための取組として、読書活動の充実、外国語活動の推進、体力づくりの奨励、校外学習など学校教育活動に対して人的・物的支援を行った。

・主 な 事 業

1. 小・中学校運営事務			
<目的> 学力・体力の向上に向けた学校運営を図るための支援を行うとともに、特色ある学校づくりを進める。 <取組の状況> ①外国語指導助手を雇用し、各中学校の英語の授業時数に応じて配置を行った。②学校の特色を生かした授業づくりの推進、人事配置による担当教諭の教科時数の不均衡是正を図るため、各校の実情に応じて常勤・非常勤講師の配置を行った。③体力向上に向けた取組や教材備品購入のための予算配当、図書基準に応じた図書の一括購入を行った。 <成果> ①外国語指導助手を配置することにより、生徒の英語発音や国際理解教育の向上が図れた。②特色のある授業づくり、また教科時数の負担軽減を図るための人員配置することで、教員がきめ細かな学習指導の支援を行った。③効果的な教材備品を整備することにより、各小・中学校の教育目的の達成や特色ある授業づくりなど教諭の指導力を最大限に発揮させるとともに、児童生徒にとっても、わかりやすく充実した授業が提供できた。④学校図書については、国が目標として設定している学校図書館の図書標準を基準に、図書の入替えや不足図書の購入を進めることにより、学校図書館の図書を充実させ、児童生徒の読書活動や主体的な学習活動を支援できた。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必 要 性	A	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)		

<p>《評価》 円滑な学校運営、学力・体力の向上に向けた取組、また特色ある学校づくりを進めていく上で必要であるため、今後も継続した取組が必要である。</p>	23年度決算(千円)	317,757	
<p>2. 小・中学校教育振興事業</p>			
<p>《目的》 体育及び文化活動の充実を図り、生徒の「確かな学力」と「豊かな人間性」を向上させる。</p> <p>《取組の状況》 運動会・卒業式等の各種行事に対する記念品の贈呈や、各学校が実施する体育・文化活動事業や進路対策に要する費用に対する一部補助を行った。</p> <p>《成果》 学ぶ意欲・学力・体力の向上、学校の特色づくりに向けた取組が定着しつつある。</p> <p>《評価》 教育振興を図るためのそれぞれの手段や取組等について、目標や成果を具体的に設定するなど、効果が具体的に検証できるような方策を検討する必要がある。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	9,134	
	23年度決算(千円)	9,408	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
小・中学校運営事業	学校教材備品等整備事業	決算(予算)額(千円)	30,188	39,711	36,266	(35,400)	(32,600)	21・22年度に学校ICT環境整備事業の補助金活用により増額
	学校図書整備事業	達成率	92%	94%	96%	98%	100%	
		決算(予算)額(千円)	11,982	14,700	8,844	(12,000)	(12,000)	22年度に光をそそぐ補助金活用により23年度予算を前倒しした
業小・中学校教育振興事業	体育・文化	対象事業数	74	86	100	100	—	
	活動補助金	決算(予算)額(千円)	4,124	4,341	4,578	(4,983)	(5,000)	

《課題》

学校図書については、学校図書標準冊数に基づき充実を図っているが、依然標準冊数に達していない学校がある。一方、パソコン等の普及により活字離れ・読書離れの傾向があり学校図書室を利用する児童生徒が減少しつつある。

《今後の取組》

児童生徒が学校教育を受けるために必要な教材備品を整備することは、欠かすことのできない基本的な事業であると考え。これまで、行財政改革の中でも予算を確保すべき優先順位の高い事業として位置付けされており、今後も、充実・発展を図っていく。

安心して学べる教育環境の整備

学校教育課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：学校教育の充実 主な取組事項：安心して学べる教育環境の整備
目的	地域・家庭・学校・行政が連携し、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和の取れた児童生徒の育成ができる教育環境の整備を目指す。

	主な取組事項の経緯
	家庭や地域における教育力の低下により、学校教育に求められる内容が多様化しており、心身ともに健康な児童生徒の育成のためのさまざまな取組が必要となっており、ニーズにそった人的資源の整備が不可欠な状況である。

・主 な 事 業

1. 児童生徒包括的支援事業				
〈目的〉 問題を抱える児童生徒に対して、さまざまなアプローチから問題解決に取り組み、充実した学校生活を過ごせるように人的環境を整備する。 〈取組の状況〉 心のケア支援事業、スクールカウンセラー派遣事業、スクールソーシャルワーカーによる不登校相談などを行った。 〈成果〉 不登校、いじめ問題や虐待などの問題が発生した時に、専門性を活かして技術的な支援をすることができた。 〈評価〉 困難や不安を抱える児童生徒や保護者に対しては、専門的な助言をすることで、安心感を与えて充実した学校生活につなぐことができるので、高い市民ニーズに応じていると考える。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	A	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	22年度決算(千円)			3,848
	23年度決算(千円)			3,902
2. 特別支援教育推進事業				
〈目的〉 特別に支援を必要とする子どもたちの適正な就学を図るとともに、社会自立のできる児童生徒の育成を目的とする。 〈取組の状況〉 就学相談をはじめ、通級指導教室の運営、支援員・介助員の派遣等を行った。 〈成果〉 進学・進級を迎える児童生徒76人に対し、就学相談を行った。特別支援学級に支援員や介助員を配置することにより、より安全で充実した教育活動を行うことができた。 〈評価〉 支援が必要な児童・生徒に対する教員の指導力の向上や、教育環境の整備はまだ十分とは言えない。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	A	A	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	22年度決算(千円)			4,866
	23年度決算(千円)			7,938

3. 学校給食事務			
<p>〈目的〉 児童・生徒の心身の健全な発達のために、学校給食の栄養管理・衛生管理・給食指導への支援等適正な学校給食事業の運営を行う。</p> <p>〈取組の状況〉 献立作成・給食物資納入・物資検査等の業務及び調理業務の民間委託業務の推進、並びに中学校給食の充実を図るとともに給食費の徴収を強化した。</p> <p>〈成果〉 年間 185 回、7,000 食余りの給食業務を安全に行った。また、中学校における弁当給食についても喫食数が増加している。</p> <p>〈評価〉 平成 24 年度には全小学校で給食調理業務を外部委託する予定であるので、これまで以上に食材の納入業者を含め、委託業者との連携の強化が必要である。中学校の弁当給食については、喫食数の増加のため、メニューの改良が必要である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	
	有効性	B	A
	効率・経済性	A	
	22 年度決算(千円)	439,347	
	23 年度決算(千円)	469,873	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21 年度 実績	H22 年度 実績	H23 年度 実績	H24 年度 予定	将来目標 (平成 27 年度)	備考
児童生徒包括 的支援事業	スクールカ ウンセラー 配置	配置校数	4	4	4	4	14	2校については県費
		決算(予算) 額(千円)	1,385	1,375	1,143	(1,150)	—	
育推進事業 特別支援教 育支援員配 置	特別支援教 育支援員配 置	配置校	8	8	11	13	14	配置校には緊急雇 用創出事業による 介助員・支援員を含 む(人件費を除く)
		決算(予算) 額(千円)	4,185	4,238	4,995	(5,103)	(11,907)	
学校給食 事務	学校給食の 提供 (賄材料費)	実施回数	185	185	185	185	185	
		決算(予算) 額(千円)	302,866	312,798	316,594	(319,700)	—	幼稚園給食・教職員 等への給食を含む

《課題》

不登校やいじめなどの問題を抱える子どもたちに関係する機関が増えても、情報が一元的に管理されないため、子どもたちや保護者は大きな負担を感じている。個人情報に配慮しつつも、必要な情報共有ができるしくみづくりが必要である。また、身体障害や発達障害など、特別支援教育を必要としている児童生徒の数は増え続けており、学校教育だけでなく、福祉や保健など、中学校卒業後も含めた支援方法の共有化がなされていない。

《今後の取組》

給食は、必要なエネルギーや栄養を補うことに加え、地域の産業を知ることや豊かな食体験を提供する役割を担っていることを再認識し、これまで以上に学校と連携し、給食を通じた食育を進めていく。

また、支援を要する子どもたちが学びやすい環境を整えることは、全ての子どもにとって学びやすい環境をつくることであるという認識に立ち、学校教育の柱の一つとして位置づけていく。

さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置等を行っているが、子どもに関する情報がしっかりと守られながら必要ところで共有され、つまづきを抱えた児童・生徒を包括的に支援できる体制づくりを進めていく。

安心して学べる教育環境の整備

総務課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：学校教育の充実 主な取組事項：安心して学べる教育環境の整備
目 的	地域・家庭・学校・行政が連携し、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和の取れた児童生徒の育成を目指す。 施設面では、学校施設の耐震化を最優先事業と位置付け、安全・安心・快適な学校づくりを推進する。

	主な取組事項の経緯
	<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な教育環境を提供するため、学校施設設備の安全点検を進めるとともに耐震化を含めた施設の改修、教材の整備・充実を図っている。 施設面では、厳しい財政状況の中、緊急性、重要性等を考慮し、計画的に施設の維持管理に努める。

・主 な 事 業

1. 教育施設耐震化事業			
〈目的〉 学校施設の耐震化により、児童・生徒の安全を守り良好な学習環境を確保するとともに、災害発生時には避難場所としても活用されることから地域住民の安全・安心の確保を図る。 〈取組の状況〉 香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震補強工事を順次進めていく。 〈成果〉 計画のとおり Is 値の低い体育館 1 棟の耐震補強工事を実施し、完了した。 〈評価〉 目的達成のため、今後も最優先して取り組むべき事業であるが、さらに事業コスト縮減に向けた検討が必要である。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	A
	有 効 性	A	
	効率・経済性	B	
	22 年度決算(千円)		
23 年度決算(千円)			42,305
2. 小・中学校施設維持管理事業			
〈目的〉 児童・生徒に、健康で安全に過ごせる良好な学習環境を提供する。 〈取組の状況〉 校舎や校舎等に付随する設備、運動場、体育施設等の保守、点検、営繕工事等を実施する。 〈成果〉 学校の良好な教育環境を維持するため、必要な機器の修理	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	A
	有 効 性	B	
	効率・経済性	A	

や、施設の改修・修繕を実施した。 〈評価〉 児童・生徒に良好な学習環境を提供するには必要不可欠な事業であり、計画的に進めることにより、学校施設等の長寿命化に有効な事業である。	22年度決算(千円)	136,345
	23年度決算(千円)	165,854

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
教育施設耐震化事業	小学校施設耐震化事業	耐震化率(%)	77.1	79.2	79.2	83.3	100	
		耐震化実施施設数(棟)	2	1	0	2	8	
	中学校施設耐震化事業	耐震化率(%)	75.0	75.0	79.2	79.2	100	
		耐震化実施施設数(棟)	0	0	1	0	5	
小・中学校施設維持管理事業	小学校施設維持管理事業	小学校施設延床面積㎡	53,026	53,748	53,748	53,748	53,748	
		維持管理工事費(千円)	7,394	10,671	10,922	(17,000)	—	
	中学校施設維持管理事業	中学校施設延床面積㎡	34,366	34,366	34,366	34,366	34,366	
		維持管理工事費(千円)	3,521	11,466	124,644	(7,500)	—	H23年度北中増築費を含む



【耐震補強工事が完了した香芝中学校屋内運動場】

《課題》

現在、施設の耐震化の推進には予算の確保が重要であり、市の財政状況や国の交付金状況を考慮しながら事業を進めていく必要がある。

《今後の取組》

厳しい財政状況の中、最小のコストで最大の効果が得られるよう、引き続き耐震化や大規模改修に向けた年次計画を策定し、施設管理を実施する。

信頼される学校づくり

学校教育課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：学校教育の充実 主な取組事項：信頼される学校づくり
目的	教育に寄せる市民の期待は非常に大きく、学校評議員制度などを利用しての学校評価を行い、学校改善を進めていく。教育の実践にあたっては現状の教員の資質向上により、市民の負託に応える教育の質の向上を図る。

	主な取組事項の経緯
	学校評議員制度は平成16年に市内全ての小中学校で実施し、毎年学校評価を行い、改善につなげている。教員研修の機会を市教育委員会独自で計画実施し、教職員の資質向上を行っている。

・主な事業

1. 教職員資質向上事業			
〈目的〉 さまざまな研究・実践活動への取組や研修への参加を通じて、教職員の資質の向上を図る。 〈取組の状況〉 学習研究・授業実践発表、教員研修、教育講演会、教育研究所の運営などを実施した。 〈成果〉 従来からある教科研究だけでなく、研究テーマを独自に設定したグループなどの自主的活動へ輪が広がった。 〈評価〉 教員への研修は年々内容を充実させており、教員の主体的な自己研鑽に役立っていると思われる。また、研究費の助成は、教育現場の課題解決につながっているが、今後の助成先については、選択と集中が必要であると思われる。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	723	
	23年度決算(千円)	367	
2. 開かれた学校づくり推進事業			
〈目的〉 学校が地域や家庭と連携協力し、一体となって子どもの健全な成長を図ることを目的とする。 〈取組の状況〉 各市立小中学校において保護者や地域住民の中から教育に関する見識を有する5名の評議員を置き、評議員会を開催しながら学校運営への意見を求める。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	B	

<p>《成果》 教員だけでなく、子どもたちの教育に関係する地域の方が参加し、教育課題を共有するとともに、学校運営への意見聴取を行い、学校運営に活かした。</p> <p>《評価》 開かれた学校づくりは、地域にむけて情報発信を積極的に行い、地域とともに子どもたちの教育を進めるために欠かせない取組である。本事業により、地域・家庭との連携が強まってきており、目的を達成するためには有効と考えられる。</p>	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)		594
	23年度決算(千円)		588

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
教職員資質向上事業	教育研究費助成	研究・実践 発表園校及び団体数	8	8	9	9	—	
		決算(予算) 額(千円)	190	200	250	(150)	—	
開かれた学校づくり推進事業	学校評議員会	開催回数	42	42	42	42	42	
		決算(予算) 額(千円)	600	594	588	(630)	(630)	

《課題》

学校情報の積極的な地域への発信が十分でないため、学校は、子どもの教育課題について地域や家庭と十分共有できていない。

《今後の取組》

従来からある教科研究会に一律に助成するのではなく、テーマを明確にした教育研究を進めていくことにより、教員の意欲を引き出していきたい。また、教育成果は小さなことでも地域へ発信し、学校が市民から関心を持たれ、親しみのある存在となることにより、さらに学校と地域の有効な連携が図れるものとする。

子どもの居場所づくり

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成） 主な取組事項：子どもの居場所づくり
目的	地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、自然や人々とのふれあい、社会参加活動を推進し、青少年の情操教育を行い、次代を担う青少年の健全な育成を図る。

	主な取組事項の経緯
	近年、核家族化や都市化が進行し、コミュニケーション不足から、家庭や地域社会における教育機能の低下が懸念される中、イベントやふれあいの場を設定することにより健全な育成を図ることが重要である。

・主な事業

1. 子どもフェスティバル事業			
〈目的〉 子どもたちが休日に保護者や友だち、地域社会の人たちとふれあい、豊かなこころを育てるためのコミュニケーションの場を提供すること。 〈取組の状況〉 子どもフェスティバルに参加する子どもたちや親子が物づくり・体験・体感をとおして、地域社会の人たちとふれあい、健康な心を育むことを目指し関係諸団体と協力して取り組んでいる。 〈成果〉 子どもたちや親子が休日の一日(2,274人参加)を有意義に過ごし、ふれあいやコミュニケーションを取り合い豊かな心を育てた。 〈評価〉 子どもたちの楽しい笑い声が響き渡り、コミュニケーション作りや豊かなこころを育てる手助けになっていると考える。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	B	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	27	
	23年度決算(千円)	39	
2. 青少年野外活動センター管理運営事業			
〈目的〉 自然とふれあい仲間づくりを大切に、豊かな心でたくましく青少年を育成することを目的として野外活動の場を提供する。 〈取組の状況〉 青少年団体や家庭・地域がふれあいと交流を深める場として青少年野外活動センターを活用するように目指している。 〈成果〉 平成23年度は4,745人の利用があり、自然とふれあい、仲間づくりを大切に、豊かな心でたくましい青少年の育成を図った。 〈評価〉 友達の大切さ、命の大事さを自然と触れ合い社会生活を学び、青少年の健全育成に有効であると考え。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B
	必要性	B	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	1,976	
	23年度決算(千円)	1,992	

3. 成人式事務			
<p>〈目的〉 成人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を社会の一員として受け入れ、多くの仲間たちと連携して、地域社会の担い手として前途を励ます。</p> <p>〈取組の状況〉 式典の運営・企画等は新成人による実行委員会形式で、行政と連携して実施している。</p> <p>〈成果〉 新成人が実行委員として、運営・企画した。参加率は約 82%であった。</p> <p>〈評価〉 新成人とともに成人式を企画・運営をし、思い出に残る式典運営を行えていると考えられる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	B
	22年度決算(千円)	988	
	23年度決算(千円)	1,332	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
子どもフェスティバル事業	子どもフェスティバル	決算(予算)額(千円)	6	27	39	(30)	(70)	ふれあいフェスタと合同になり4年目
		参加人数(人)	中止	1,500	2,274	2,300	2,500	
青少年野外活動センター事業	青少年野外活動センター管理運営事業	決算(予算)額(千円)	2,068	1,991	1,972	(2,183)	(2,000)	
		利用者数(人)	5,014	4,248	4,745	5,000	5,000	
成人式事務	成人式運営事業	決算(予算)額(千円)	1,130	988	1,332	(1,446)	(1,500)	対象人数の増加
		式典参加者数(人)	503	593	580	700	700	



【子どもフェスティバル】



【青少年野外活動センター】



【成人式】

《課題》

子どもフェスティバル事業は、実行委員会形式で実施しているが、参加団体に依存度が大きく、市からの予算を確保する必要がある。青少年野外活動センター周辺の環境が設置当初より大きく様変わりし、付近に住宅が建ち並び、テントを張って宿泊体験やキャンプファイアなどの活動に支障が出ている。また、施設の老朽化もはげしく、場所の移転や改修も視野に入れて検討する必要がある。

《今後の取組》

子どもフェスティバルは、ふれあいフェスタと共同開催ということもあり、予算化されていないが、今後においてもふれあいフェスタと連携しながら、企画・運営していく必要がある。

広報啓発の強化

青少年センター

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成） 主な取組事項：広報啓発の強化
目的	青少年の健全育成に対する市民の意識高揚と家庭の教育力向上を図るため、広報啓発活動を行う。

	<p style="text-align: center;">主な取組事項の経緯</p> <p>市民集会や教育講演会などの青少年健全育成活動事業を開催するにあたり、市民や保護者に対する広報啓発を強化し、多くの参加を得ている。また、街頭指導等については、非行の早期発見や犯罪に関わることを未然に防止するため、駅前啓発や市内の防犯パトロールを強化している。今後も広報紙への掲載や市民にチラシや冊子などを配付し、青少年の模範となるような行動の実践を呼びかける。</p>
--	---

・主な事業

1. 「少年の主張」事業			
<p>〈目的〉 市立の小・中学生が家庭や学校、友人、地域社会について日頃考えていること、抱えている想いを市民集会の場で作文発表することで、青少年の健全育成について市民の理解と関心を深める。</p> <p>〈取組の状況〉 青少年の健全育成推進のために関係機関・団体が連携し、地域住民が一体となって家庭や地域の教育力の向上にむけ青少年健全育成市民集会を開催する。本大会は小・中学生の考えや意見を作文として募集し、審査会で選考された優秀作品を市民集会で発表する。</p> <p>〈成果〉 発表をとおして多くの市民に、本市の明るく元気な若者の姿に理解と関心を深めてもらった。</p> <p>〈評価〉 267名の参加があり大変好評であった。青少年の健全育成に向け、家庭・学校・地域社会が一体となって関係機関・団体が連携を図り、今後も鋭意推進していくことが重要である。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)	1,867	
	23年度決算(千円)	1,087	
2. 広報啓発活動事業			
<p>〈目的〉 次代を担う本市の青少年の健全育成を図るにあたり、市民が規範意識の向上と望ましい行動様式を確立し、模範を示すという見地から関係機関・団体と連携し本活動に取り組む。このことにより、市民に青少年の健全育成に対する理解と認識を浸透させ人としての温かさや思いやりのある豊かな人間形成を目指す。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	

<p>《取組の状況》 青少年健全育成推進大会、香芝市内4中学校区青少年補導員合同研修などを開催し、市民に健全育成について啓発を行うほか、少年補導員や青少年指導員、行政関係者とともに市内の駅頭で年2回の啓発活動を行う。また、ポスター、のぼり旗、看板、広報車などの各種広報媒体を活用して広報と啓発を行う。</p> <p>《成果》 計画どおりの活動を行った結果、本市においては、青少年による大きな事件や事案は発生していない。これは、青少年健全育成協議会等が主体となる活動が効を奏していると考えられる。</p> <p>《評価》 本活動は、良い結果を出しているが青少年の問題行動や非行は、関係者の努力にもかかわらず低年齢化に加え増加傾向にあり、その解決のために引き続き、関係機関・団体と連携して推進していくことが必要である。</p>	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)		1,867
	23年度決算(千円)		1,087

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度(実績)予定	将来目標(平成27年度)	備考
少年の主張	市民集会	参加者数	新型インフルエンザのため中止	245	267	260	260	
広報活動	健全育成推進大会	参加者数	新型インフルエンザのため中止	281	240	(120)	240	

※健全育成推進大会の24年度の参加者数が減じたのは、開催当日の午前中に大雨洪水警報が発令され解除になったことが、午後の大会の参加者数に影響したと考えられる。

《課題》

変化の激しい不透明な社会において青少年を非行から守り、心身ともにたくましく自立した青少年を育成していくことは重要課題である。市民に青少年問題について理解と関心を深めていただくために大会や集会などを開催しているが、一人でも多くの市民に参加していただくための事前周知を強化する必要がある。このことから、それぞれの事業を強化継続して展開できるよう計画していく必要がある。

《今後の取組》

青少年を非行から守り、心身ともにたくましく、自立した青少年を育成していくためには地道な取組が必要である。今後も引き続き、広報紙への掲載や市民・保護者に対するチラシや冊子を配付し、青少年の模範となるような行動の実践を呼びかける。



【香芝市青少年健全育成推進大会】



【近鉄五位堂駅前広場での駅頭啓発】

子ども見守り活動の推進

青少年センター

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成） 主な取組事項：子ども見守り活動の推進
目 的	青少年による非行の早期発見や犯罪の被害から守るため、店舗への立入りや巡視活動を推進する。また、良好なまちの景観形成を図るとともに、違反広告物の除却作業により環境美化を推進する。

	主な取組事項の経緯
	近年、全国的に青少年の非行は凶悪化・低年齢化の傾向が見られる。さらには情報化・消費社会化等の進行により青少年の健全な育成を阻害する恐れのある有害な情報等が氾濫し、それに加えて大人社会のモラルの低下が青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしている。このような状況下、本市では学校・地域・補導活動専門委員等と連携し、市内巡視や店舗等への立入調査及び子ども見守り活動での下校指導や防犯パトロールを強化している。

・主 な 事 業

1. 市内特別巡視事業			
〈目的〉 青少年センターと少年補導員等、関係機関・団体とが連携して実施する補導活動により、青少年非行の早期発見や犯罪に関わることを未然に防止し、健全な育成を図る。 〈取組の状況〉 警察や少年補導員など関係機関・団体と連携し、補導活動や夏期・冬期夜間特別巡視、祭礼巡視などの巡視活動を実施した。また、児童生徒の下校時に合わせ、見守り活動や定期パトロールを行った。 〈成果〉 各校区において警察や少年補導員など関係機関・団体による下校指導や見守り活動により、子どもを取り巻く大きな事件や事案は発生していない。 〈評価〉 計画どおりの活動等により、良い成果が出ており、引き続き活動を推進していくことが必要である。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必 要 性	A	
	有 効 性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	1,867	
	23年度決算(千円)	1,087	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
巡視事業 市内特別	市内・夜間 特別巡視	回数	310	262	310	300	300	

《課題》

子ども見守り活動を推進するには、警察や少年補導員など関係機関・団体との連携が必要であるが、それぞれの立場や職業を越えての連携を実現するために、活動の計画や情報交換を密に行うことが必要である。

《今後の取組》

全国的に青少年の非行は凶悪化・低年齢化の傾向が見られる。また、青少年の健全な育成を阻害する恐れのある有害な情報等が氾濫し、さらには大人社会のモラルの低下が青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしている。このような状況下、本市では今後さらに学校・地域・補導活動専門委員等と連携し、市内巡視や店舗等への立入調査をはじめ、防犯パトロール等を強化していきたい。

体験学習の機会の提供

青少年センター

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成） 主な取組事項：体験学習の機会の提供
目的	ふるさとの自然や文化にふれるとともに、体験活動や野外活動をとおして、親子・なかまのふれあいを図りながら、自主性や社会性、協調性を身につけ、子どもが自ら取り組み、さらには問題解決にむけた意欲や能力を培う。

	主な取組事項の経緯 広報紙で一般公募した小・中学生、（保護者）を青少年指導員の指導の下、体験的な場所へ引率指導する。
--	---

・主な事業

1. ふるさと探訪事業			
〈目的〉 体験活動や見学をとおし、環境保全に興味・関心を抱かせる（環境教育）とともに集団でのマナーやルールの意識を養い（規範意識の獲得）、社会性や豊かな人間性を育み、健全な青少年の育成を図る。 〈取組の状況〉 広報紙で一般公募した小・中学生を青少年指導員の指導の下、歴史的、体験的な場所へ引率指導した。 〈成果〉 本事業に参加し、さまざまな体験や参加者とのふれあい、交流を通して協調性や規範意識を育むことができた。 〈評価〉 参加者や保護者からも好評である。さまざまな体験や参加者とのふれあい、交流が子どもの成長に大きな効果があることから今後も本事業を継続して実施したい。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	B	
	有効性	A	
	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)	1,867	
	23年度決算(千円)	304	
2. ファミリー雪体験ツアー事業			
〈目的〉 日常、体験のできない雪原に引率し、家族や参加者同士が絆や交流を深める中で集団でのマナーやルールを守るとともに、社会性や豊かな人間性を育み健全な青少年の育成につとめる。 〈取組の状況〉 広報紙で一般公募した小・中学生とその保護者を青少年指導員の指導のもと、雪原へ引率し、雪像作りや雪合戦など日	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	B	
	有効性	A	

頃体験できない活動を行った。 〈成果〉 本事業を通して、家族や参加者同士が交流の中で、集団での協調性や規範意識の向上につなげることができた。 〈評価〉 小・中学生やその保護者からも参加して大変良かったと好評である。さまざまな体験や参加者との交流が子どもの成長に大きな効果があることから、今後も本事業を継続して実施したい。	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)		1,867
	23年度決算(千円)		304

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績(予定)	将来目標(平成27年度)	備考
探訪事業 ふるさと	体験活動	参加者数	30	32	25	26	40	
体験ツアー事業 ファミリー雪体	体験活動	参加者数	66	80	72	(80)	80	

《課題》

各事業については、年々参加希望者が増加傾向にある。一方、指導員の不足がみられるため、指導員の確保について考えていかなければならない。

《今後の取組》

各事業については、青少年指導員会議で決定されるが、常に見直しを加え、魅力のある事業を計画したい。



【雪体験ツアー（滋賀県余呉赤子山）】

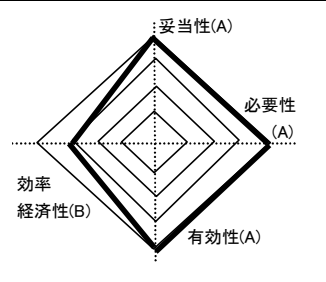


【ふるさと探訪（伊賀流忍者博物館）】

適応指導の充実

青少年センター

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 子ども・若者のフォローアップ（青少年の健全育成） 主な取組事項：適応指導の充実
目 的	青少年や保護者及び関係者の教育の悩みに対して相談活動を実施し、必要な助言・援助またはカウンセリングを行い、関係機関を紹介する。不登校児童生徒への早期対応をはじめ、より一層きめ細やかな支援を行う。また、適応指導教室では、登校できない児童生徒を対象に、集団生活への適応指導を行い、学校への復帰を援助する。

	主な取組事項の経緯
	保護者及び学校と定期的な連絡会や面談を行うことで子どもの状況に応じた多様な方法で学校生活への復帰を支援する。また、相談内容は複雑多岐にわたり、より専門的対応が要求されている。

・主 な 事 業

1. 教育相談事業			
〈目的〉家庭教育・学校教育上の諸問題（学習、生活、対人関係等）について、個人の持つ悩みや困難な状況を解決、援助することにより、その児童生徒における人格成長への援助を図る。また保護者についても心のケアを図る。 〈取組の状況〉社会教育指導員による教育相談（14時～17時）と臨床心理士による心理相談（火曜13時～17時・第1・第3木曜9時～17時）を実施した。 〈成果〉相談者の悩みの解消や心のケアを図り安心感につながっている。なお、平成22年度から学校教育課にスクールソーシャルワーカー（SSW）が配置されたことや、青少年センターの諸活動と社会教育指導員による積極的な家庭訪問が効を奏し、相談件数が減じた。 〈評価〉臨床心理士のカウンセリングは、大半の方が継続されており、相談者の支援につながっている。また、社会教育指導員による教育相談も相談者の悩みや困難な状況の解決、援助につながっている。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必 要 性	A	
	有 効 性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)		
23年度決算(千円)			1,600

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
教育相談事業	相談活動 (指導員)	相談回数	348	206	278	250	150	
	相談活動 (臨床心理士)	相談回数	464	337	213	250	350	
		合計	812	543	491	500	500	

《課題》

青少年センターに相談事業があることを知らない市民がいることが考えられるため、さまざまな手段や伝達方法を講じて周知する必要がある。

《今後の取組》

家庭教育・学校教育上の諸問題（学習、生活、対人関係等）について、個人の持つ悩みや困難な状況を解決、援助することが相談者の安心や児童生徒の人格成長につながることから、今後も広報やホームページに掲載し周知の徹底を図りたい。

生涯学習機会の充実

生涯学習課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組事項：生涯学習機会の充実
目的	人材を学習の場で有効かつ効果的に活用し、新たなコミュニティづくりを目指すとともに、市民ニーズを的確に把握し、地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、親子関係のあり方や基本的生活習慣、思いやりの心の育成など、基礎的な学習機会の充実を図る。

	主な取組事項の経緯
	効率的・効果的な学習機会を提供できるよう、講座参加者からのアンケート等を参考にしてニーズを把握し、学習内容の充実を図る。

・主な事業

1. 市民公開講座事業			
〈目的〉 年々高度化、多様化する市民の学習意欲に積極的に対応し、生涯学習を活性化するため、市と連携している大学の協力により、市民の充実した学習機会を設け支援すること。 〈取組の状況〉 幅広く市民に学習の機会を提供し、楽しく学べる講座を開設する。 〈成果〉 「健康」をテーマにし、広く一般成人の方を対象とした講座を開催し、受講者数が増加した。 〈評価〉 講座日・テーマ別等に受講者のバラつきが見られるが、受講者に減少傾向が見られず、おおむね市民のニーズを取り入れていると考えている。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	176	
	23年度決算(千円)	183	
2. 市美術展覧会事業			
〈目的〉 市民に芸術に対する関心を高めて生涯学習の一助とするとともに、市の美術・芸術の振興を図ること。 〈取組の状況〉 市民の美術に対する関心を高め、生涯学習の成果を発表する場を提供し、市の美術・芸術の振興を図っている。 〈成果〉 市内外を問わず日々研鑽した161点の作品を出品してもらい、展覧会が市の芸術振興の一助となっている。 〈評価〉 出品数にも増加傾向が見られ、質的にもレベルの高い美術展と評価を受け、本市の芸術振興が図られたと考えられる。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	802	
	23年度決算(千円)	736	

3. 学級生大会事業

〈目的〉 社会教育学級生が一年間の学級活動の総まとめとした「テーマ」を掲げ、学級生同士が自己を高め連帯意識を持つこと。 〈取組の状況〉 一年間の学級活動の発表の場であり、自己啓発の場であるため、支援・協力・助言を的確に行うように取り組んでいる。 〈成果〉 学級生大会を行うことにより、目的でもある「自己を高め連帯意識を持つ」ことができ、有効に開催できた。 〈評価〉 学級生が一年間の学級活動のまとめを創意工夫し意欲的に発表の場を活かしている。また、学級生同士の連帯感を強めている。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B	
	必要性	B		
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
		22年度決算(千円)		32
		23年度決算(千円)		32

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
市民公開講座	市民公開講座	決算(予算)額(千円)	91	176	183	(250)	(250)	提携している大学との協力開催
		開催数	6	5	6	5	5	
		参加者数(人)	246	162	310	330	350	
市美術展覧会	美術展覧会	決算(予算)額(千円)	807	802	763	(873)	(875)	審査員及び講評会の人数
		出品数(点)	134	136	161	170	200	
		来場者数(延べ人数)	411	452	581	600	600	
学級生大会	学級生大会	決算(予算)額(千円)	16	32	32	(76)	(80)	託児委託料の増加
		参加者数(人)	256	246	204	250	250	



【市民公開講座】



【市美術展覧会】



【学級生大会】

《課題》

市民公開講座は、誰もが参加できるテーマとしたことで、参加者の増加を見たが、今後もテーマも広く捉えた中で周知する必要がある。学級生大会は、参加者に減少傾向が見られるが、学習意欲や交流は、図れていると考えられるためさらなる事業拡大が必要である。

《今後の取組》

事業開催については、市民に十分なPRを行い、市民の「ニーズ」を取り入れた学習機会の提供を行うとともに、学習成果の発表の場も提供しているが、参加者や応募者の増につながるよう、わかりやすく広報し、誰でもが参加しやすい環境を整備しなければならない。

スポーツ団体の支援

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組事項：スポーツ団体の支援
目 的	スポーツ少年団、レクリエーション協会等の活動支援と充実、広範な年齢層に多様な種目のスポーツを指導することができるスポーツ推進委員等の育成・支援によって充実を図り、多様化・高度化する市民のスポーツニーズに対応する。

	主な取組事項の経緯
	スポーツ少年団においては、スポーツを通じて健全育成に努めるとともに、指導者においても、情報交換や研修会を開催し指導者の資質向上に努めている。また、レクリエーションの普及振興を図るため、体験入会デーの開催と、年間をとおして協会加盟クラブ活動日に市民オープン参加の呼びかけを行っている。

・主 な 事 業

1. スポーツ少年団支援事業				
〈目的〉 香芝市スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年にスポーツを振興し、もって青少年の健全な育成指導に関する事項を協議し、相互の連絡を密にすること。 〈取組の状況〉 入退団式、春・秋親善競技大会や、指導者・母集団育成講習会等にて情報交換に努めている。また、県内のスポーツ少年団とスポーツをつうじての交流活動も行っている。 〈成果〉 各団が自主的で主体性をもった活動を展開しており、スポーツをとおして青少年の健全育成を図った。平成 23 年度の入団員は、797 名であり、指導者は 277 名である。 〈評価〉 加入する団員が減少傾向にあり、魅力ある団活動にする必要がある。そのためにも、スポーツ少年団の原点であるスポーツの遊び・スポーツを通じて青少年の心と体を育てることを見つめ直さなければならない。また、指導者の資質向上のため、より一層の研修会・意見交換等を行なう必要がある。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	B	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	22 年度決算(千円)			1,270
	23 年度決算(千円)			1,270
2. 各種団体支援事業				
〈目的〉 市民の余暇生活を開発し、充実させるため、レクリエーションの普及振興を図り、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の形成に資することを目的とする。	行政関与の妥当性	B	総合評価	
	必 要 性	A	B	

〈取組の状況〉 市民だれもが参加し活動できるイベントとして、クラブフェスティバル・ペタンク大会・体験入会デーの開催と、年間をとおして協会加盟クラブ活動日に市民のオープン参加を呼びかけている。 〈成果〉 体験入会デーを開催し日頃の活動の成果を発表し、加入募集を行いレクリエーションの普及振興を図った。 〈評価〉 市民の余暇生活を充実させ、明るく豊かな生活に資するために、各種イベント等を開催しているが拡大につながっていない。より一層のレクリエーションの普及振興の強化を図る必要がある。	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)		180
	23年度決算(千円)		180

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
支援事業 スポーツ少年団	スポーツ少年団事業	決算(予算)額(千円)	1,370	1,270	1,270	(1,270)		
		団員登録人数	826	803	797	762		
		加入率(%)	18.1	17.3	17.0	17.0		
各種団体支援事業	レクリエーション協会事業	決算(予算)額(千円)	314	180	180	(180)		
		レクリエーション協会加入者数	513	477	492	441		
		レクリエーション協会事業実施数	8	8	9	11		



【スポーツ少年団入団式】



【バレーボール教室】



【レクリエーション活動】

《課題》

各団のそれぞれ自主的な活動を支援するという立場にあり、魅力ある団活動にする必要がある。また、指導者等の育成・充実を図るとともに、資質向上を行う必要がある。

レクリエーション事業においては、参加者の高齢化も進んでおり、若返りを図り、より一層のレクリエーションの普及振興の強化を図る必要がある。

《今後の取組》

積極的に地域と連携・協力し、住民にも理解していただける事業の充実・発展に取り組み、社会的信頼の深まる運営を進めなければならない。各種団体の活動状況については、確実に成果と実績が積み重ねられてきているが、今後、より一層の社会スポーツの充実・発展、また活動団体の育成を図る必要がある。

中央公民館活動の活性化

中央公民館

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる環境の充実 主な取組事項：中央公民館活動の活性化
目的	生涯学習活動の拠点施設として、生涯学習の場、ふれあいの場として各種講座や講演会等を開催し、学習機会の提供と学習活動の支援を行う。 また、教育・文化サークル団体の活動の場を提供するとともに、公民館まつり等で日頃の学習成果を発表して会員相互の親睦を図る。

	主な取組事項の経緯
	各種講座、学級等を開催するとともに、夏休み期間には夏休み親子体験教室を開催している。また、年度始めの「開講のつどい」や「春のつどい」で生涯学習の必要性、大切さや連帯感を確認している。 公民館まつり等では、年間の学習の成果を展示する等、それぞれの部門で発表の機会を設けている。

・主な事業

1. 生涯学習機会提供事業			
〈目的〉 いつでも、だれでもが学習の機会に恵まれ、生涯学習のキッカケづくりの場、情報の場をめざす。 〈取組の状況〉 各種講座（12講座）、夏休み親子体験教室（11教室）、開講のつどいや春のつどい及び公民館まつり等を開催している。 〈成果〉 すべての講座、教室も人気があり、定員を越えて抽選をしている状態である。 〈評価〉 人気の高い講座もあるなど、公民館が主催する各種講座や教室事業は有効に機能している。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	22年度決算(千円)	2,318	
23年度決算(千円)	2,202		
2. 登録団体育成事業			
〈目的〉 自主団体サークルの養成を図り、団体の育成とともに公民館活動の活性化を図る。 〈取組の状況〉 平成23年度は114の団体登録があり、継続的に公民館を利用して学習成果を高めている。 〈成果〉 公民館まつり等をとおして日頃の学習成果を発表して、会員相互の親睦を図り仲間意識、連帯感を図った。 〈評価〉 各団体とも活発に活動されているが、メンバーの高齢化が進んでいることから、若返りを図る必要性がある。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	0	
23年度決算(千円)	0		

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
生涯学習機会提供事業	講座・教室	開設数	14	13	12	14	15	
		決算(予算)額(千円)	1,260	1,076	1,102	(1,178)		
	開講のつどい	参加者数	600	500	550	500	800	
		決算(予算)額(千円)	377	377	380	(380)		
	春のつどい	参加者数	1,000	850	800	800	900	
		決算(予算)額(千円)	465	525	380	(380)		
公民館まつり	参加者数	4,500	4,800	4,950	5,100	5,500		
	決算(予算)額(千円)	360	340	340	(360)			
登録団体 育成事業	登録団体 育成事業	団体数	126	119	114	113	120	
		会員数	2,484	2,408	2,349	2,277		
中央公民館	利用状況	利用件数	4,366	4,009	4,048	4,100	4,200	
		利用人数	71,560	72,104	68,245	70,000	80,000	
		使用料(千円)	2,001	3,918	4,185	(4,000)		



【公民館開講のつどい】



【子ども料理教室】

《課題》

市民の学習意欲のニーズが高まるなか、社会変化に対応した各種講座や学級、また夏休み親子体験教室等を開催する必要がある。

《今後の取組》

現在の取組を継続しつつ、自主活動団体を登録団体として公民館研修室を確保して学習活動支援を行うとともに、公民館事業を効果的にPRすることで市民の積極的な参加を促し、次代を担う指導者の発掘と養成を行っていく必要がある。

図書館機能の充実

市民図書館

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び・楽しめる教育環境の充実 主な取組事項：図書館機能の充実
目 的	生涯学習施設の一つとして、市民の学習や暮らしを支えるとともに、地域課題の解決に役立つ資料や情報を幅広く収集・保存し、提供する。

	主な取組事項の経緯
	平成4年(1992年)4月の開館以来、「本との出会い・人との出会い」を大切に、「暮らしに役立つ図書館」「親しまれる図書館」を目指し、貸出冊数の拡大、開館時間の延長や祝日開館の実施、パソコンや携帯からの蔵書検索・予約サービスなど利便性の向上を図るとともに、学校との連携強化、団体貸出の充実、保育所や学童保育所への巡回サービスなど子どもの読書環境の整備に取り組んできた。

・主 な 事 業

1. 図書館資料提供事業				
〈目的〉 市民の主体的な学習への支援や多種多様な読書要求に対応するために、図書等の資料や情報の提供を行う。 〈取組の状況〉 図書や視聴覚資料などを収集・整理・保存し、閲覧、貸出、調査・相談、複写などにより、資料や情報の提供を行った。 〈成果〉 貸出冊数は減少傾向にあるが、資料・情報提供のもう一つの機能であるレファレンス件数は伸びた。 〈評価〉 社会の変化の中で、図書館の利用が多様化しており、資料を収集し、利用者に提供するという図書館の本来的な事業は有効に機能している。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	A	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	22年度貸出冊数			595, 714
	23年度貸出冊数			589, 204
2. 子どもの読書活動推進事業				
〈目的〉 市内のすべての子どもが心豊かに育つために、あらゆる機会や場所で本と出会って楽しむことができるよう、子どもの読書環境の整備を図る。 〈取組の状況〉 おはなし会、絵本の読み聞かせ会、子どもの読書に関連した講演会・講習会等を市民グループと協力して開催した。 〈成果〉 小学校中学年以上の利用が減少傾向にあるが、学校・幼稚園・保育所等の団体貸出は増加した。 〈評価〉 現行事業の見直しとともに、学校との連携強化、中・高校生(ヤング層)への働きかけ、施設への巡回サービスの拡充を図っていく必要がある。	行政関与の妥当性	B	総合評価	
	必 要 性	A	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	22年度貸出冊数			224, 214
	23年度貸出冊数			222, 501

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度実績	H22年度実績	H23年度実績	H24年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
図書館資料提供事業	蔵書冊数	冊	217,331	224,099	226,952	230,000	250,000	図書・雑誌・視聴覚
	貸出冊数	冊	615,225	595,714	589,204	630,000	650,000	図書・雑誌・視聴覚
	予約件数	件	21,761	25,991	27,654	30,000	35,000	
	レファレンス件数	件	3,500	2,958	3,197	3,500	3,500	
子どもの読書活動推進事業	貸出冊数	冊	225,059	224,214	222,501	230,000	250,000	図書のみ
	団体貸出	冊	9,133	12,001	13,072	13,000	14,000	学校・幼稚園等
	おはなし会	人	589	539	571	580	600	月2回開催
	えほんたいむ	人	1,002	1,302	1,081	1,400	1,500	月2回開催



【子ども読書の日記念事業：えほんのひろば】

《課題》

市民図書館へのニーズの多様化等により、図書館機能の根本でもある個人貸出は減少傾向にある。また、視聴覚室の利用は、最盛期の約40%に落ち込んでいる。

さらに、高齢化社会を見据え、来館が困難な方への巡回サービスの拡充や図書館サービス網の構築にむけた取組も必要となってきた。

《今後の取組》

現状の取組を継続しつつ、課題解決型、滞在型、コミュニテイ型の図書館機能を充実するとともに、保育所や学童保育所、さらには地域への巡回サービス機能も拡充する。また、マルチメディア化が進んだ今日における視聴覚室のあり方を根本から見直し、有効利用できるように取り組む必要がある。

スポーツ施設維持・運営事業

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組事項：スポーツ施設維持・運営事業
目 的	市民に対する健康増進の効果及びサービス面での質を向上させ施設を良好な状態に保つための補修及び維持整備を図る。

	主な取組事項の経緯
	平成 22 年度から（社）香芝市体育協会を指定管理者として社会体育施設の管理運営と市民スポーツ事業の推進を図っている。老朽化により施設等の補修及び改修が多く維持整備工事等が急務であり計画的に整備を進め、安全に施設利用ができるよう努めている。

・主 な 事 業

1. 社会体育施設運営事業			
〈目的〉 指定管理者のスポーツ振興事業能力を活用しつつ、地域住民に対する健康増進の効果及びサービス面での質を向上させ、福祉の一層の増進を図る。 〈取組の状況〉 平成 22 年度から（社）香芝市体育協会を指定管理者とし社会体育施設の管理運営と市民スポーツ事業の推進を図っている。 〈成果〉 市民サービスの向上が図られ、さらにコストの縮減も図られた。 〈評価〉 指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託したことにより、その成果は着実に出てきている。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B
	必 要 性	A	
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	22 年度決算(千円)		
23 年度決算(千円)			79,655
2. 社会体育施設維持整備事業			
〈目的〉 施設を良好な状態に保つための補修及び維持整備事業 〈取組の状況〉 指定管理者と協議を図りながら、施設等の補修及び維持整備工事を進めている。 〈成果〉 緊急を要するものより、随時、改修・補修を行った。 〈評価〉 利用者の利便性・安全を考え優先順位を決めたうえ改修・補修を行っており安全に利用できている。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B
	必 要 性	A	
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	22 年度決算(千円)		
23 年度決算(千円)			5,775

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
社会体育施設 運営事業	体育施設 運営	決算(予算) 額(千円)	109,269	86,705	79,655	(78,891)		
		利用者数 (人)	285,648	260,220	260,992	261,000		
		社会体育施設 数	10	10	10	10		
社会体育施設 維持整備事業	補修・ 工事	決算(予算) 額(千円)	12,081	19,260	5,775	(4,500)		
		補修・工事件 数	7	8	6	5		



【総合体育館】



【健民運動場】



【高塚テニスコート】

《課題》

供用開始後、30年以上の期間が経過している施設もあり、老朽化により補修や改修が必要となっている箇所が多い。

《今後の取組》

施設運営においては、市民ニーズを反映した運営を推進し、さらなる市民サービスの向上を図るため、今後も引き続き指定管理者に委託していきたいと考えている。

施設維持については、利用者の利便性・安全性を考え、優先順位を決めるなど計画的に補修や改修を行い、良好な施設環境の維持に努める。

博物館機能の充実

二上山博物館

総合計画の 位置付け	政策名 : みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施策名 : 歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組事項 : 博物館機能の充実
目的	地域の歴史・文化財等の収集・調査・研究を継続的に進め、その成果は普及事業等を通じて積極的な公開を促進する。それにより、地域文化の活用と活性化を図りつつ、次代に引き継ぐための保存の措置を講じる。

	<p style="text-align: center;">主な取組事項の経緯</p> <p>地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い生涯学習の機会を提供し、一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図るため、市民の対象・年齢層、多様化・高度化する学習ニーズを把握し、それに応じた事業内容の充実を図っている。</p>
--	--

・主 な 事 業

1. 資料の保存と調査・研究推進事業			
<p>〈目的〉 貴重な郷土の歴史遺産の調査・研究を継続的に進め、次代に引き継ぐため、適正な環境で保存の措置を講じる。</p> <p>〈取組の状況〉 資料の調査・研究を推進し、その成果を市民に積極的に公開・活用している。</p> <p>〈成果〉 市内所在文化財一般調査により、市内の古文書調査を継続的に実施し、スポット展等により収蔵資料の活用を図った。</p> <p>〈評価〉 調査成果は地域文化の蓄積となり、資料と合わせて後世へ継承し活用が図れている。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	A
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	644	
	23年度決算(千円)	561	
2. 学習環境充実事業			
<p>〈目的〉 博物館の特色を打ち出した事業を展開し、一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図る。</p> <p>〈取組の状況〉 市民に地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い学習機会の充実に努めている。</p> <p>〈成果〉 「石の博物館」ならではの特色ある事業を展開し、多くの参加者があった。</p> <p>〈評価〉 各事業において参加対象者や年齢層、アンケート等により学習ニーズを把握し、それぞれに応じた事業内容の充実を図っている。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	4,773	
	23年度決算(千円)	4,381	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
学習環境充実事業	普及・啓発 事業	観覧者数 (人)	8,700	9,322	8,503	9,000	10,000	
		事業参加者 数(人)	7,665	7,807	7,867	7,900	9,000	公開講演会、ふたか み歴史散歩ほか
		子ども向け 体験学習参 加者数(人)	1,783	2,583	2,361	2,500	3,000	二上山アドベンチャー教 室(サファイアさがし、 勾玉・銅剣づくり ほか)



【ふたかみ歴史散歩（現地学習）】

《課題》

地域の歴史や文化財に親しみ、その理解を深めるための歴史学習を支援する博物館事業への興味・関心は高まる傾向にあり、市民からは事業の拡大、内容のさらなる充実が求められている。また、博物館資料の増加に伴う展示・収蔵施設の狭隘など、多くの課題が顕在化しており、地域の優れた文化財を継続的に観覧・保存できる環境整備が必要となっている。

《今後の取組》

地域の歴史・文化財を活かしたさまざまな学習機会を提供し、市民の年齢層や多様化・高度化する学習ニーズを把握し、それぞれに配慮した事業内容の充実を図っていく。そのために、博物館資料の調査・研究を並行して推進し、その成果を積極的に公開・活用していくことも重要である。また、施設設備の維持管理については、課題の解決に向けた具体的な検討を進めていく必要がある。

尼寺廃寺跡史跡整備の推進

生涯学習課

総合計画の位置付け	政策名：みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施策名：歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組事項：尼寺廃寺跡史跡整備の推進
目的	飛鳥時代後半に造営された史跡尼寺廃寺跡を歴史公園として整備することによって、貴重な文化遺産を保護して後世に継承し、市民に憩いの場と地域の文化財に触れ合う場を提供するとともに、広く文化財保護意識の向上を図り、さらに、全国に観光資源として尼寺廃寺跡をアピールしていく。

	主な取組事項の経緯
	尼寺廃寺跡は平成 14 年 3 月 19 日に国史跡に指定され、整備事業として平成 15 年度から用地買収、平成 19 年度から整備工事を開始している。平成 22 年度においては市道新設工事が完了し、史跡指定地内を南北に通る市道を廃止して指定地全面の整備ができるようになった。今後とも早期に整備工事が完了するよう、整備検討委員会において主要伽藍の表示方法やガイダンス施設の展示など、詳細な整備内容や整備後の活用・管理方法について議論しなければならない。

・主な事業

1. 尼寺廃寺跡史跡整備推進事業			
〈目的〉 貴重な文化遺産を保護して後世に継承し、市民に憩いの場と地域の文化財に触れ合う場を提供するとともに、広く文化財保護意識の向上と観光資源としても活用を図る。 〈取組の状況〉 整備検討委員会を 3 回開催し、指定地内の具体的な整備方法について議論した。 〈成果〉 平成 23 年度は予定していた補助金が被災した文化財の復興等に補助金が充てられたため配分されず、整備工事等ができなかった。しかし、整備検討委員会を 3 回開催して具体的な整備方法を議論し、今後の実施設計に活かすことができた。 〈評価〉 平成 23 年度は東北太平洋沖地震の影響で予定していた事業ができなかったが、整備検討委員会において今後の整備内容を議論し、具体的な整備内容や整備方針、方向性が見えてきた。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22 年度決算(千円)	30,268	
	23 年度決算(千円)	141	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
整備推進事業 尼寺廃寺跡史跡	尼寺廃寺跡整備事業	整備率	74.01%	76.18%	76.19%	78.22%	100%	平成23年度は東北地方太平洋沖地震の影響で補助金が配分されなかった。
		決算(予算)額(千円)	18,518	30,268	141	(32,190)	—	



【史跡尼寺廃寺跡現況】



【塔基壇全景（発掘調査時）】

《課題》

主要伽藍の具体的な整備方法については、整備検討委員会での議論によりほぼ決まってきた。しかし、指定地外に建設を予定しているガイダンス施設については、その活用方法によって内容や規模が決まることから、今後とも継続的に委員会を開催して議論しなければならない。

《今後の取組》

今後も継続して整備工事を進めると同時に整備検討委員会でガイダンス施設等の詳細な部分や完成後の活用についても議論を進め、整備事業全体がスムーズに進むよう努める。

文化財の保護・管理

生涯学習課

総合計画の位置付け	政策名：みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施策名：歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組事項：文化財の保護・管理
目的	文化財を後世に保存・継承するため、文化財保護に関する必要な施策を講じて文化財の保護啓発に努めるとともに市民の文化的向上に資することを目的とする。

	主な取組事項の経緯 平成5年度に文化財保護条例を制定して以降、文化財の指定をはじめ、指定文化財の修理や管理事業に伴う補助金交付事業、文化財の防火訓練の実施など各種の文化財を保護するための支援策を講じるとともに、二上山博物館と連携して文化財説明板の設置や文化財普及図書の発行、出前講座等を通じて文化財の普及啓発を行っている。
--	--

・主な事業

1. 文化財保護啓発事業			
〈目的〉 市内の文化財を広く市民に周知して活用を図り、文化財の保護啓発に努める。 〈取組の状況〉 文化財の巡視活動、文化財の防火訓練等によって文化財の保護・管理に努めるとともに、出前講座や文化財関係図書の発行等を通じて文化財の普及啓発を行っている。 〈成果〉 各種活動によって文化財の保護に寄与しており、文化財や歴史に関する学術資料の提供や学習相談にも対応した。 〈評価〉 文化財の調査を通じて学術資料が蓄積されており、成果は主に博物館事業を通じて文化財の保護啓発が図られている。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	124	
	23年度決算(千円)	32	
2. 文化財保護審議会事務局事務			
〈目的〉 文化財を後世に良好な状態で保存・継承するため、文化財の有識者の指導を得ながら必要な施策について調査・審議する。 〈取組の状況〉 市内に所在する文化財の調査を進め、これまで31件の市指定文化財の指定を図るなど文化財の保存を図ってきた。 〈成果〉 学術的価値を把握するための各種文化財の調査を順次進めており、平成23年度からは二上山産の凝灰岩で製作された石造物の調査を進めている。 〈評価〉 各種文化財に通じた文化財保護審議会委員の助言と指導により、適切に文化財の保存・管理が進められている。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	22年度決算(千円)	0	
	23年度決算(千円)	109	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H21年度 実績	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
啓発事業 文化財保護	文化財保護啓発事業	決算(予算)額(千円)	479	124	32	(0)	—	平成23年度から事務事業を統廃合している事業があるため、決算額の変動がある。
会 事 務 局 事 務 文化財保護審議	文化財保護審議会事務局事務	指定件数	31	31	31	31	—	平成23年度から事務事業を統廃合している事業があるため、決算額の変動がある。
		決算(予算)額(千円)	74	0	109	(218)	—	



【文化財保護審議会委員による文化財調査】

《課題》

市指定文化財への指定や各種の文化財保護支援策等によって文化財の保護・管理に努めてきたが、市内には未だ学術的価値や実態が不明な文化財も多々みられる。本市では、文化財保護業務の大半は開発に伴う埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査関係事務に費やされており、調査で得られた文化財や歴史に関する資料をどのように整理し、保存、活用していくかが大きな課題となっている。

《今後の取組》

各種の文化財の調査をとおして市内の文化財や歴史に関する基礎資料を収集し、文化財の整理・保存を進めるとともに、博物館と連携して展覧会や歴史講座、出前講座等をとおして郷土の歴史資料として広く市民が活用できるように文化財の普及・啓発に努めていく必要がある。

評価・点検の方法

- ① 各事業を担当する教育委員会事務局職員（ワーキンググループ）により事務事業点検をしました。
- ② 教育委員会事務局職員（教育長・教育部長・教育部次長・担当課長）による内部評価をしました。
- ③ 教育委員会において総合的に評価を行いました。
- ④ 知見者から意見をいただきました。
（点検・評価シートに関する知見者の意見）

2. 点検・評価シートに関する知見者の意見

- 事業費をみると、幼児教育の関連事業では増加しているが、その他の事業では財政事情を反映して減少傾向にある。そういう厳しい状況下にあって、全体的にはそれぞれの事業が滞ることなく、充実に向けた取組が進められていると受け取れる。
- 前年度の報告書と比較して、今年度はA・B・C・D評価を加えることによって、23年度の活動状況がわかりやすくなった。また、教育委員会として、多くの事業に取り組む中、全体としてAやBの評価であり、各事業は充実しているように思われる。
- 1年間の事業活動を、各2ページにまとめるのは大変だと思う。各担当課ではそれぞれの事業目標があって、その達成に向けた取組が進められていると思われるが、個々の取組について具体的な内容がわからない事業も見受けられる。
例えば、耐震工事のように具体的な数値で表すことができる事業については、成果がわかりやすいが、教育に関してはわかりにくい事業が多い。
- 生涯学習関係で講演会などの開催については、広報紙やホームページだけでなく、より広く参加者を募るための方法を工夫してほしい。
- 野外活動センターについては、昨年と同様の課題があげられているが、改善に向けた展望があれば、今後の取組の中で表してほしい。
- 青少年センターの施設は、位置的には問題がないが、平成14年3月に設置され、老朽化が進んでいる。財政的に苦しい状況とは思いますが、学校に行くことができない子どもたちが学習や運動ができるより良い施設となるように検討してほしい。
- 限られた予算により各事業を進めていく上で、今、担当者を含め事業に関わる人の企画力、人と人をつなぐコーディネート力、多様な考えを持った人々に対しての説得力などが求められている。同じような事業であっても、より充実した内容となるよう

工夫する努力をしてほしい。この評価を活用して今後もより質の高い成果を求めて、取り組んでほしい。

- 図書館の視聴覚室の利用が落ち込んでいるが、メディアの発達状況に合致した対応を考えてほしい。
- 体育施設については、まず使用者の安全を最優先とし、事故の発生につながるような器具や施設について、保守点検や改修などを計画的に実施してほしい。
- 観光資源として尼寺廃寺を全国にアピールするとあるが、他に集客スポットがなければ単独では難しいと思われるので、情報発信の方法について工夫してほしい。

知見者名簿

龍谷大学 名誉教授	中川 法城
畿央大学 教育学部講師	島本 敬子
市 PTA 協議会会長	木村 佳史

3. 資料

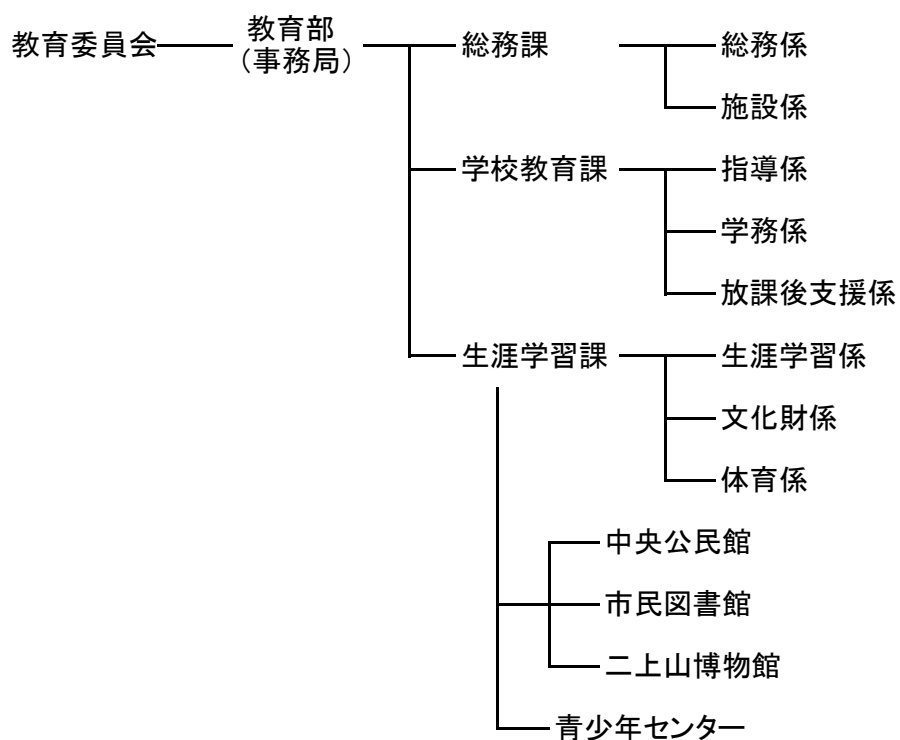
(1) 教育委員会の概要

・教育委員及び教育長

(平成24年7月1日現在)

役職名	名前	任期
委員長	粕田保	平成21. 10. 1~25. 9. 30
委員長職務代理者	日高初美	平成20. 10. 12~24. 10. 11
委員	大前珠己	平成20. 10. 12~24. 10. 11
委員	中木秀一	平成22. 10. 1~26. 9. 30
教育長	廣瀬裕司	平成23. 10. 1~27. 9. 30

・教育委員会組織図



(2) 平成23年度 教育委員会活動状況

(平成23年4月～24年3月)

月	日	行 事 名
4 月	7 日	小学校入学式
	8 日	中学校入学式
	11 日	入園式
	23 日	公民館開講のつどい
	25 日	教育委員会定例会
5 月	8 日	香芝市選手権大会
	11 日	県市町村教育委員会連合会会議
	21 日	香芝市PTA協議会総会
	22 日	体育協会総会
	24 日	香芝市青少年健全育成協議会理事会
	25 日	教育委員会定例会
	28 日	市民体育祭実行委員会
6 月	1 日	市町村教育委員長・教育長会
	20 日	教育委員会定例会
	25 日	市民体育祭実行委員会
	28 日	香芝市青少年健全育成協議会総会
7 月	9 日	香芝市青少年健全育成協議会推進大会
	26 日	教育委員会定例会
	28 日	人権教育シンポジウム
	30 日	奈良県民体育大会壮行会
8 月	22 日	教育委員会定例会
9 月	23 日	小学校運動会
	24 日	小学校運動会
	26 日	教育委員会定例会
	28 日	教育委員会先進地視察
	29 日	教育委員会先進地視察
10 月	1 日	小学校運動会
	5 日	中学校体育大会
	9 日	幼稚園運動会
	18 日	学校訪問
	19 日	学校訪問
	21 日	学校訪問
	23 日	市民体育祭
	24 日	学校訪問
	25 日	学校訪問
	27 日	学校訪問
	28 日	教育委員会定例会
	31 日	学校訪問
11 月	7 日	学校訪問
	8 日	学校訪問
	11 日	公民館まつり
	14 日	県市町村教育委員研修会
	19 日	市民体育祭実行委員会
	24 日	教育委員会定例会
	26 日	香芝市美術展覧会
12 月	3 日	香芝市青少年健全育成「市民集会」
	21 日	教育委員会定例会
1 月	9 日	香芝市成人式
	22 日	香芝市マラソン大会
	24 日	教育委員会定例会
	28 日	教育講演会並びに教育委員会との懇談会
2 月	1 日	香芝市青少年健全育成「教育講演会」
	22 日	教育委員会定例会
	25 日	春のつどい
	26 日	教育委員会表彰
3 月	15 日	中学校卒業式
	16 日	卒園式
	19 日	小学校卒業式
	28 日	教育委員会定例会

(3) 教育委員会定例会の開催状況

(平成23年4月～平成24年3月)

会議別	開催日	議案及び協議の内容	結果
平成23年 第4回定例会	4月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市教育委員会事務局の管理職及び教育機関の長の任免に関する専決処分の承認について 2. 香芝市学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱に関する専決処分の承認について 3. 香芝市就学指導委員会委員の委嘱に関する専決処分の承認について 4. 香芝市文化財保護審議会委員の委嘱に関する専決処分の承認について 5. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県教育委員会の『まなびの支援2011』について ・園・小中学校の行事予定表について ・公民館開講の集いと前期8講座の申し込み状況について ・教育委員会の事務事業の管理及び執行の点検・評価について 	<p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p>
第5回定例会	5月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市社会教育委員の委嘱に関する専決処分の承認について 2. 香芝市公民館運営審議会委員の委嘱に関する専決処分の承認について 3. 平成24年度使用中学校教科用図書選定委員会委員の任命又は委嘱について 4. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課関係会議のスケジュールについて ・不登校問題に関わる連携会議について ・保・幼・小・中の連携教育推進協議会の設立について ・後援名義使用承認について ・幼・小・中のグランドデザインのホームページ掲載について ・幼・小・中の学校要覧について ・少子化に伴う幼稚園の統合・幼保一本化について 	<p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案可決</p>
第6回定例会	6月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市教育委員会教育長の任命について 2. 平成23年度香芝市立五位堂小学校等の学校評議員の委嘱について 	<p>任命</p> <p>原案可決</p>

		<p>3. 香芝市体育指導委員の委嘱について</p> <p>4. 香芝市就学指導委員会調査員の任命及び就学指導委員の委嘱に関する専決処分の承認について</p> <p>5. その他報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼・保一体化の進捗状況と現状について ・二上小学校諸問題（教育環境整備）について ・三和幼稚園耐震補強計画について ・香芝市社会教育委員（社会教育関係者）の決定について ・第1回市民体育祭実行委員会の決定事項について ・6月定例会市議会における「教育委員会に関わる一般質問」について 	<p>原案可決 原案承認</p>
第7回定例会	7月26日	<p>1. 香芝市文化財保護審議会委員の委嘱について</p> <p>2. 香芝市教育委員会事務局の管理職及び教育機関の長の任免に関する専決処分の承認について</p> <p>3. 平成24年度使用中学校教科用図書選定委員会委員の任命に関する専決処分の報告について</p> <p>4. その他報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学指導委員会組織構成図について 	<p>原案可決 原案承認 報告受理</p>
第8回臨時会	8月22日	<p>1. 平成24年度使用中学校教科用図書の採択について</p>	<p>原案可決</p>
第9回定例会	8月22日	<p>1. 平成23年度香芝市の教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について</p> <p>2. 香芝市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則及び香芝市体育指導委員に関する規則の一部を改正することについて</p> <p>3. その他の報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香芝市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則及び香芝市体育指導委員に関する規則の公布について 	<p>原案可決 原案可決</p>
第10回定例会	9月26日	<p>1. 香芝市教育委員会委員長の選挙について</p> <p>2. 香芝市教育委員会委員長の職務代理者の指定について</p> <p>3. 香芝市教育委員会教育長の任命について</p> <p>4. 香芝市教育委員会事務局の管理職及び教育機関の長の任免について</p> <p>5. その他報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月定例会市議会における「教育委員会に関わる一 	<p>指名推選 指定 任命 原案可決</p>

		<p>般質問等の報告」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関屋学童保育所の移転について ・ 平成 23 年度学校訪問の日程等について 	
第 11 回定例会	10 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について 2. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民体育祭について ・ 公民館まつり等について 	報告受理
第 12 回定例会	11 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市暴力団排除条例の施行に伴う関係条例の整備に関する条例について 2. 香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について 3. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 香芝市民体育祭について ・ 香芝市民図書館の開館時間について ・ 教育委員会事務局の組織について ・ 香芝市美術展表彰式について ・ 第 3 5 回公民館まつりについて ・ 平成 2 3 年度卒業式・卒園式、平成 2 4 年度入学式・入園式の日程について ・ 平成 2 4 年度予算編成について ・ 香芝市少年の主張作文発表会について 	<p>原案承認</p> <p>報告受理</p>
第 1 3 回定例会	12 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市教育委員会会議規則の一部を改正することについて 2. 香芝市立幼稚園規則の一部を改正することについて 3. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少年の主張作文発表会について ・ 平成 23 年度香芝市教育委員会表彰式の日程（案）について ・ 成人式について ・ 12 月定例会市議会における教育委員会に関する一般質問等について 	<p>原案可決</p> <p>原案可決</p>
平成 2 4 年第 1 回定例会	24 年 1 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度香芝市教育委員会表彰被表彰者の決定について 2. 香芝市民図書館条例施行規則の一部を改正することについて 3. その他報告等 	<p>原案可決</p> <p>原案可決</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・成人式について ・香芝市民マラソン大会と市町村対抗子ども駅伝大会について ・公民館春のつどいについて ・市制施行20周年記念行事『写真で振り返る20年』について ・教育委員会事務事業の点検・評価と平成24年度主要施策について ・学校現場等の数値化目標について 	
第2回定例会	2月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正することについて 2. 香芝市二上山博物館名誉館長設置要綱の制定について 3. 平成24年度香芝市教育費予算について 4. 香芝市立学童保育所条例の一部を改正することについて 5. 香芝市公民館条例の一部を改正することについて 6. 香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について 7. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の専科(体育)教諭について 	<p>原案可決</p> <p>原案可決</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>報告受理</p>
第3回定例会	3月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香芝市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則の一部を改正することについて 2. 平成24年度香芝市学校教育の指導方針について 3. 学校教育法施行細則の一部を改正することについて 4. 香芝市立学童保育所の運営等に関する規則の一部を改正することについて 5. 香芝市児童生徒の出席停止の命令の手續に関する要綱の制定に関する専決処分の報告について 6. 香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について 7. 香芝市教育委員会事務局の管理職及び教育機関の長の任免について 8. その他報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・3月定例会市議会における教育委員会に関する一般質問について ・公民館開講のつどいについて 	<p>原案可決</p> <p>原案可決</p> <p>原案可決</p> <p>原案可決</p> <p>報告受理</p> <p>報告受理</p> <p>原案可決</p>

(4) 平成24年度 教育部重点目標

基本方針（ビジョン）

学校教育においては、時代の変化に即応しながらも基礎・基本を大切に、知力・体力を備え、人間性豊かで自律した市民として子どもたちが成長することを目指す。

また、教職員の研修・研究などをおして指導力の向上に努めるとともに、環境整備に積極的に取り組み、安全で安心な信頼される学校づくりを推進する。さらに、社会教育については、市民誰もが生涯を通じ、あらゆる場で共に学び合い、支え合うことができる生涯学習社会の実現を図る。

重点目標

優先順位	重点目標	活動内容
1	学校施設等の耐震化の推進	学校の施設等の耐震化については、引き続き教育委員会の最優先課題に位置付け次の事業を実施する。 ・下田・二上小学校屋内運動場 ・下田・関屋・三和幼稚園園舎
1	児童・生徒の指導体制の整備	学校で起きる様々な生徒指導上の事象が発生した場合は、児童・生徒自身だけでなく、教員、保護者が大きな心理的抑圧を抱えたまま問題が長期化する傾向が見られる。そのため、学校・保護者・教育委員会が相互にどのような役割を果たし問題解決にあたるかなど具体的なアクションマニュアルや事例集などを作成し、問題発生の未然防止や早期解決のための児童生徒指導体制のしくみづくりについて研究する。
3	就学前教育の充実と幼保一体化への検討	6歳を迎えると等しく就学する子どもたちにとって、家庭環境、子どもの育ちに対する地域の理解や支援の有無、まして通っているのが保育所か幼稚園かなどによって、成長するための機会が異なることは望ましいことではない。また、小1プロブレムが問題となっている昨今では、幼児期から就学期への連続性の重要性についても十分に留意した取組がなされるべきである。今年度については、奈良県の研究指定を受け「幼児期から小学校への接続調査・研究事業」を実施し、校区を指定し保育所・幼稚園・小学校の保育士・教員間の連絡会や授業・保育参観を実施し、報告書にまとめる予定となっている。また、児童数の減少が進んでいる地域があることを踏まえ公立の幼稚園の再編について検証するにあたり、政府が進める「子ども・子育て新システム」に伴う「総合子ども園」の実施について、本市の現状を分析し、実施までのプロセス等を研究しなければならない。
3	特別支援教育体制の整備	将来的に特別支援学級に入級する児童・生徒数は高止まりの可能性はある。さらに、障がいを持つ児童生徒が有する様々な教育的課題

		を解消するため、よりきめ細やかな対応が求められることが必至であり、教員だけではそういった要望に答えきれない状況が継続する。バリアフリーやノーマライゼーションの観点から全ての子どもが等しく就学し、より良い教育を受ける機会を保障するためにも、特別支援教育の人的環境を含めた環境整備は時代の要請となるものと考えられる。
3	教員の指導力の向上	子どもたちの確かな学力の定着のため、授業研修実施状況を調査し、教員研修の充実や学習内容・指導方法などの改善を目指し、各校の取り組みがより充実したもの（内容・回数）になるよう、教育委員会としての支援体制を整える。また、体力向上については、一校一運動の推進とともに、特に、小学校低学年において複数項目で平均値を下回っていることから身体を動かすことがたのしみになるような日常的な遊びを推進するほか、市及び県記録会への参加、チャレンジ運動フェスタ等への参加者が増えるよう呼びかけていくことにより、全体的な体力や運動能力の向上を目指す。
3	児童・生徒の学力・体力の育成及び食育の推進	全国共通体力テストにおいて、奈良県はいずれの項目でも低位にある。体力の低下は、集中力や忍耐力などにも悪い影響を及ぼし、学力の低下にもつながるため、早急に取り組みを実施し、底上げをしなければならない。また、教育振興計画の策定が全国的に進む中で、市としての目標の設定や課題の分析なども急がれる。 また、「食育」は「知育」「体育」「徳育」と並び子どもたちの育成のための重要な要素であることから給食を柱として様々な食体験ができるような取り組みを進める。また、中学校における完全給食の実施の是非について、具体的な検討を開始する。
7	市民と行政が協働して進める子ども読書活動	この間進めてきた各課・施設間や市民（ボランティア）との連携・協働事業の推進とともに、保育所・学童保育所への巡回サービスや幼稚園での出前講座など新規事業の拡充に努める。また、「香芝市子ども読書活動推進計画」の最終年度にあたり、5年間の市全体の取り組みや読書環境の整備状況を把握し、今後の子ども読書活動の展開を明らかにする必要がある。
7	博物館事業の活性化	博物館の観覧者が全国的に減少するなかにあつて、当館も年々減少傾向にはあるが、特色ある普及啓発事業の充実により、各事業への参加者はむしろ増加傾向にある。しかしながら、歴史や文化財学習に関する事業は各地でさかんに開催され、休日などは事業が重なって参加者が分散しているような状況である。そのようななかで、当館は館の特色を前面に出して20年、一定の評価はあるものの新しい発想での事業も展開していく必要がある。そのためにも本市の文化財調査・研究を計画的に進め、その成果も積極的に公開・活用して新しい情報を常に発信していかなければならない。

創る 学ぶ 育つ

～ 子どもの夢をはぐくむ香芝の教育 ～

香芝市の学校教育は、日本国憲法や教育基本法を踏まえ、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な幼児・児童・生徒の育成に努める。



学校教育の具体目標

- (知) 自ら学び、自ら考える習慣を確立し、自主的で主体的な学習態度を培い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
- (徳) 個人の尊厳を重んじ、真理と正義とを希求し、公共の精神を尊び、自と他の存在を認め合う心を育てる。
- (体) 規律ある生活習慣を身に付けるとともに、体力に応じた活動を奨励し、健康でたくましい心身を育てる。
- (情操) 生命を大切に作る心、自然を愛する心、美しいものや崇高なものに感動する心を育てる。
- (人権) 人権や差別に対する正しい見方・考え方を培い、差別に立ち向かう意欲と実践力を育てる。
- (勤労) 勤労体験活動を通して、働くことの意義と喜びを感得し、正しい勤労観を培うとともに、社会でよりよく生きていくための力を育てる。
- (連帯) まわりとの人間関係のなかで、自他の敬愛の大切さと相互依存の重要性とを学び、社会連帯の意識や福祉・ボランティア精神を養うとともに、社会参加を通して豊かな心や感謝の心を育てる。
- (国際) 自国や郷土の自然と文化と歴史についての理解を深めるとともに、世界の国々の文化と民族の歴史などについての認識を高め、互いに尊重し合う態度を培う。
- (環境) 自然体験や社会体験等を通して、環境に対する人間の責任と役割を理解し、保全・改善・創出に主体的に働きかける態度を培う。

香芝市教育委員会

校種別指導の重点

《確かな学力の育成》

- 基礎・基本の充実を図り、それらを活用する力を育む -

- 幼稚園 ・調べる、比べる、尋ねるなどの様々な手法を組み合わせ、楽しみながら課題を見だし解決する活動を工夫する。
・感じたことや経験したことを自分なりの言葉で表現する力を育成する。
- 小学校 ・個に応じた指導の充実とともに、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるため、繰り返し学習などの学習活動を工夫する。
・各教科等において、記録、要約、説明、話し合いなどの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。
- 中学校 ・個に応じた指導の充実とともに、小学校の学習内容を考慮し、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるため、繰り返し学習などの学習活動を工夫する。
・各教科等において、記録、要約、批評、論述などの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。

《豊かな人間性の育成》

- 正しく判断し、行動する力を育む -

- 幼稚園 ・身近な人々との関わりを深め、愛情や信頼感、他の人を思いやる心を育む。
・自然や身近な動植物に親しませ、生命を大切にすることを育む。
・協働して遊ぶことを通して、よいことや悪いことに気付かせ、ルールを守ろうとする態度を養う。
- 小学校 ・自分や他の人を理解し、生命を大切にすることを育む。
・様々な体験を通して、豊かな感性や情操を培い、基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身に付けさせる。
- 中学校 ・自分や他の人への理解を深め、生命を大切にすることを育む。
・職場体験活動やボランティア活動などを通して、社会生活上のルールやマナーを身に付けさせ、社会参画しようとする態度を養う。

《たくましい心身の育成》

- 体力向上に向け、進んで運動に取り組む力を育む -

- 幼稚園 ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かし、伸び伸びと行動することを通して、充実感や満足感を味わわせ、健康な体づくりの基礎を培う。
- 小学校 ・運動遊びや一校一運動などを行うことにより、進んで運動を楽しもうとする態度やいろいろな運動ができる力を育てる。
- 中学校 ・運動部活動など、様々な運動の体験を通して、体力向上を図るとともに意欲的に運動に取り組む態度や生涯にわたって運動に親しむ資質を育てる。

魅力と活力ある園・学校づくりのために

特色ある教育活動の展開

- 特色ある教育課程の編成** ・子どもたちが主体的・創造的に活動できるような教育課程を編成する。
- 指導方法の工夫改善** ・一人一人の特性等に応じた指導や少人数指導、外部人材の活用など、指導の方法や体制の工夫改善を図る。
- 学校評価の活用** ・適切な評価項目や数値目標を定め、自己評価、学校関係者評価を実施し、それらの結果を活用して学校改善を図る。

教員の資質の向上

- 自己の意識改革** ・各種研修・公開講座等に積極的に参加し、自己申告評価制度を活用して、自己啓発に努める。
- 指導力の向上** ・授業公開、授業互観、研究授業等を積極的に行い、指導力の向上に努める。
- 園・学校の組織の強化** ・学校評価による成果や課題を共有し、園・校長を中心とした組織づくりを強化しながら、今後に向けた方策に取り組む。

家庭・地域との連携・協力

- 積極的な情報発信** ・学校評価の結果や教育活動の状況などについて、積極的な情報の発信に努める。
- 学校評議員制度の活用** ・学校評議員に学校運営の状況を十分説明し、保護者や地域住民等の意向を反映した学校づくりを進める。
- 地域ぐるみの学校支援体制の充実** ・安全・安心な園・学校づくりや特色ある教育活動のため、地域ぐるみで学校を支援する体制づくりの充実を図る。
- 郷土愛の育成** ・郷土の自然、歴史や文化を知り、郷土への誇りを持ち、地域との関わりを深める。

今日的な課題への対応

人間味あふれる生徒指導

実践的な安全・防災教育

個々を伸ばす特別支援教育

生活に根ざした環境教育

規範意識を培う道德教育

一貫したキャリア教育

地域・家庭と連携した食育

豊かな感性を育てる読書活動



具体的な実践課題

創意工夫した授業(保育)の実践

各園・学校において、授業研究の積極的な開催や国・県・市の指定研究を進んで受けるとともに、授業公開、授業互観、研究授業等を積極的に行い、授業改善に取り組む。(教師は授業で勝負と言われるように、授業は教師の生命線である。)

言語活動・基礎基本の充実

読み・書き・計算など、基礎基本の定着に取り組むとともに、言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力の育成に取り組む。

学習に対する姿勢(例えば、鉛筆の持ち方、椅子に座る姿勢等)・学ぶ意欲を大切にした指導に取り組む。

園・学校内外の安全確保の推進

園・学校内においては、実践的な防災教育や防犯教室等の実施に努め、園・学校外においては、通学路等における「子ども見守り活動」などの安全指導の推進に努める。

学校評価の実施

園・学校の実態に応じて適切な評価項目や数値目標を定め、保護者や児童・生徒アンケートを含めた自己評価を行い、学校関係者評価委員会(学校評議員・PTA役員等で構成)による学校関係者評価を実施し、それらの結果を積極的に情報発信したり、活用したりして学校改善を図る。

校種間の連携

中学校区ごとの連携体制の確立に努め、保幼小間や小中間の連携を密にして、それぞれの教育課題を見通した系統的な指導や学習の推進を図る。

香芝市立学校教員信条

1. 幼児・児童・生徒や地域社会から信頼され敬愛される指導者になる。
2. 学校教育の各領域にわたって、調和のある指導に情熱をかたむける。
3. 幼児・児童・生徒の伸びゆく生命・人権を尊重し、健康と安全に万全を期す。
4. つねに教育の専門職であることを自覚し、教養を高めるとともに、一層指導力の向上に努める。
5. 幼児・児童・生徒の指導を一層充実するため、家庭・地域社会との連携を積極的にすすめる。

(6) 児童・生徒・園児数一覧

(各年5月1日現在)

小学校	20年		21年		22年		23年		24年		前年比	
	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数
五位堂	16	513	17	520	16	513	16	507	17	508	1	1
下田	23	736	23	748	24	762	24	745	24	760	0	15
二上	17	570	19	614	20	673	22	739	23	783	1	44
志都美	10	293	11	317	12	350	12	375	12	360	0	-15
関屋	12	309	12	323	12	340	12	356	12	361	0	5
三和	12	359	12	353	12	345	12	361	12	364	0	3
鎌田	8	240	9	229	8	205	9	194	8	208	-1	14
真美ヶ丘東	20	656	20	664	19	626	19	630	18	608	-1	-22
真美ヶ丘西	12	353	12	350	12	356	12	353	12	351	0	-2
旭ヶ丘	36	1323	37	1357	38	1355	39	1376	37	1303	-2	-73
計	166	5352	172	5475	173	5525	177	5636	175	5606	-2	-30

中学校	20年		21年		22年		23年		24年		前年比	
	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数
香芝	18	695	18	681	17	645	17	656	16	639	-1	-17
香芝西	9	348	9	342	9	345	12	369	12	419	0	50
香芝東	17	622	17	633	17	643	18	680	18	709	0	29
香芝北	15	550	16	588	18	661	18	676	20	760	2	84
計	59	2215	60	2244	61	2294	65	2381	66	2527	1	146

幼稚園	20年		21年		22年		23年		24年		前年比	
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数
五位堂	4	102	4	98	4	86	4	74	3	80	-1	6
下田	4	119	4	110	5	131	5	140	4	131	-1	-9
二上	4	100	4	113	4	118	4	130	4	116	0	-14
志都美	4	80	4	81	3	59	2	49	2	45	0	-4
関屋	2	40	3	56	3	57	2	52	2	59	0	7
三和	3	71	2	54	3	67	3	70	2	60	-1	-10
鎌田	2	31	2	21	2	30	2	33	2	31	0	-2
真美ヶ丘東	6	155	6	154	6	151	5	129	4	100	-1	-29
旭ヶ丘	8	228	8	230	8	219	7	185	6	155	-1	-30
計	37	926	37	917	38	918	34	862	29	777	-5	-85